本草圖譜

果部

六十四

特 7 19 230

ガラス使用

本草圖譜

帝國圖書館藏

特7-230

本草圖譜巻之六十四目録

果部山果類

柰（たい）　ない　二
柹（し）　かき　四
一種　ありくされ
一種　ごしかてん　五
一種　さいしやうかき
一種　やまゑりん　六
林檎（りんきん）　りうごう　三
紅柹（こうし）（解集）　おおよかき
一種　やまぶしよ
一種　かふひまる
一種　ゑとん
朱柹（しゆし）（同）　十文字

堀田文庫

ガラス使用

一種 ぶしうがき
著蓋柹（ちよがいし）同 ゑんさかき
一種 ちた
蒸餅柹（おせうへいし）同 まる
一種 ゑりき
一種 甲州まる
一種 くろかき
烘柹（こうし） ぢゆらし

黄柹（わうし）同 ちとまる 七
牛心柹（ぎうしんし）同 つるのこ 八
一種
一種 きざはし 九
一種 うつまる 十
一種 ありき 十一
塔柹（たふし） むしかき
白柹（はくし） ころかき 十二

烏柹（うし） ふすべかき
柹餻（しかう） かきこうき
一種 みつもちや
君遷子（くんせんし） さるがき 十五
一種 ときまがき 十六
一種 かもいろさくろ
一種 ちいちうさくろ

醂柹（りんし） たるぬき
椑柹（ひし） しぶかき 十三
一種 もちや
一種 まめがき
安石榴（あんせきりう） さくろ
火石榴（くわせきりう）同 ちかさくろ 十八
海石榴（かいせきりう）同 あんきんさくろ 十九

ガラス使用

帝國圖書館藏

本草圖譜巻之六十四

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校合

果部　山果類

柰

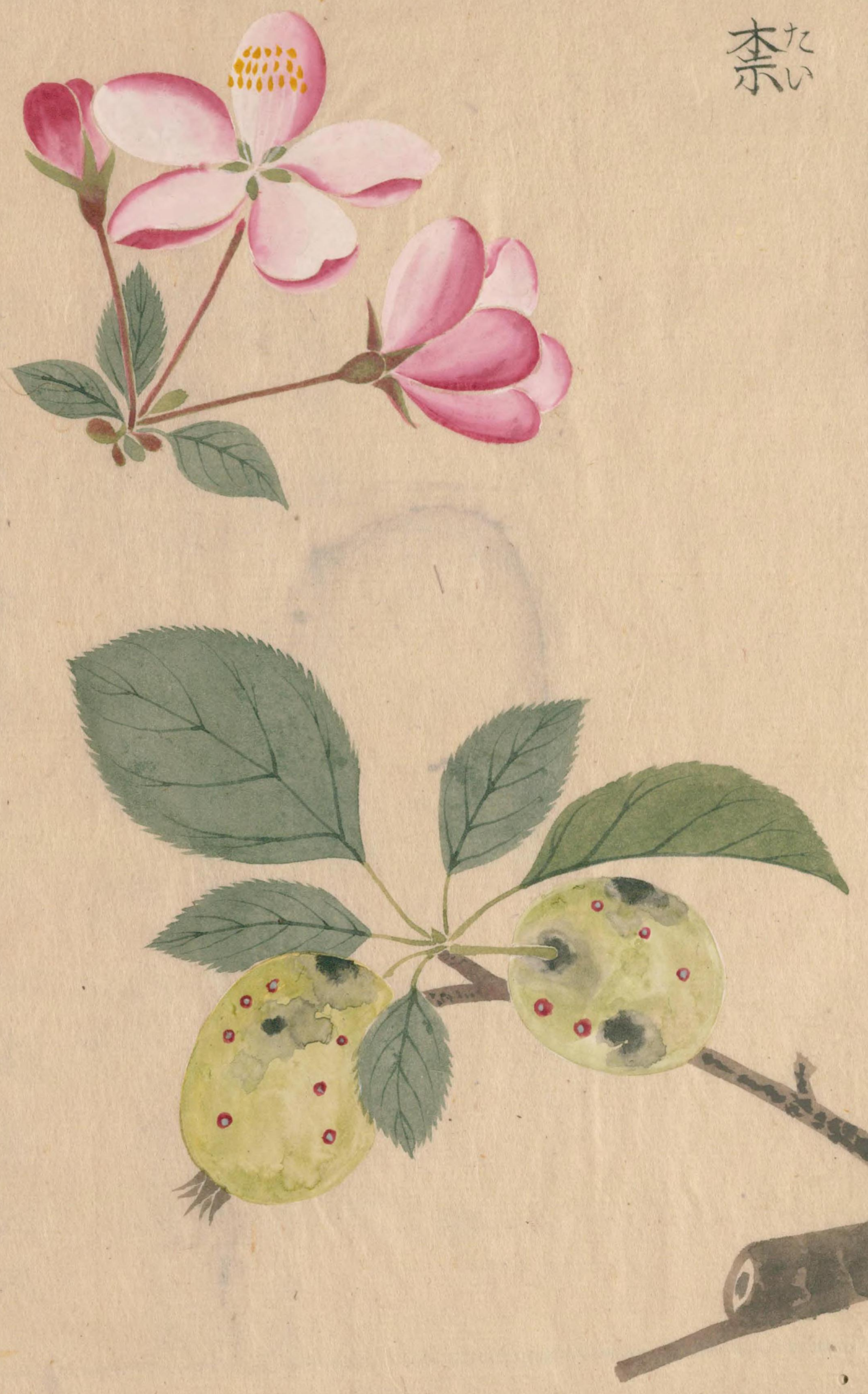
ない（和名鈔）　りんきん（大和本草）　あぶそりんご（江戸）
へふりんと（江戸加州）　べしやご（加州）　べてお（同上）
へいとて（備前）　みなへ（本朝食鑑）　頻婆（引大和本草）
頴菓（三才圖會）　荅還（通雅）　平波（典籍便覧）
苹婆（汝南圃史）　火頼賔（物理小識）
㮈（本草和名引兼名苑）　冷金丹（花鏡）　比疑縛多（梵語）

沙果子樹（救荒本草）

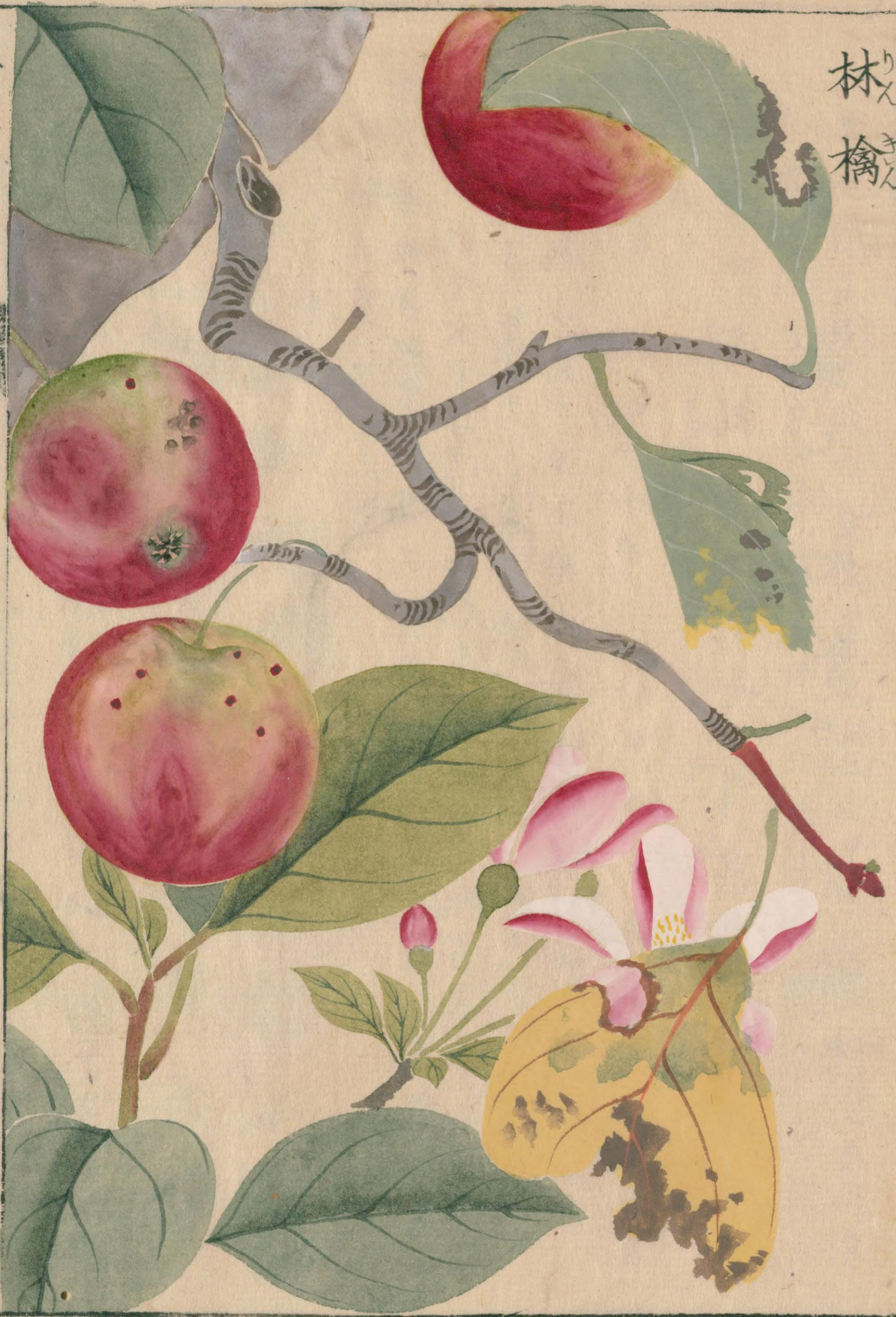
樹一二丈許り葉ハ林檎に似て頗る長し春月花咲き五瓣淡紅色後実を結ぶ又林檎に似て長し大なり熟して紅色甚美なり海紅に接てよく活す若水云ふ津軽にも信濃にもあり其実日に晒して遠きに送ると云ふ大和本草に味ひ林檎に似て甘し香し酒病を治すといへり

ガラス使用

柰（たい）



林（りん）檎（きん）



ガラス使用

林檎 りうごう（和名鈔） ゑんきん あをりんきん（加州）

花紅（汝南圃史） 文林（通雅） 蜜果（群芳譜）

冷金丹（同上） 文官果（花曆百詠） 淋檎（名物方言）

樹ハ海紅ニ似て樹皮の背白色大なるもの一丈餘葉も海紅ニ似て大く厚く紅色なく春月嫩苗の中ニ五瓣の淡紅花を簇生し実を結ふこと五六顆大さいしなしの如く圓し熟すれハ日ニ向ふ所紅色味ひ甘し

柹 かき（和名鈔） ヒイソ（蠻名）

頳虯卵（名物方言） 七奇果（同上） 錦葉（本草和名引兼名苑）

赤實果（典籍便覧）

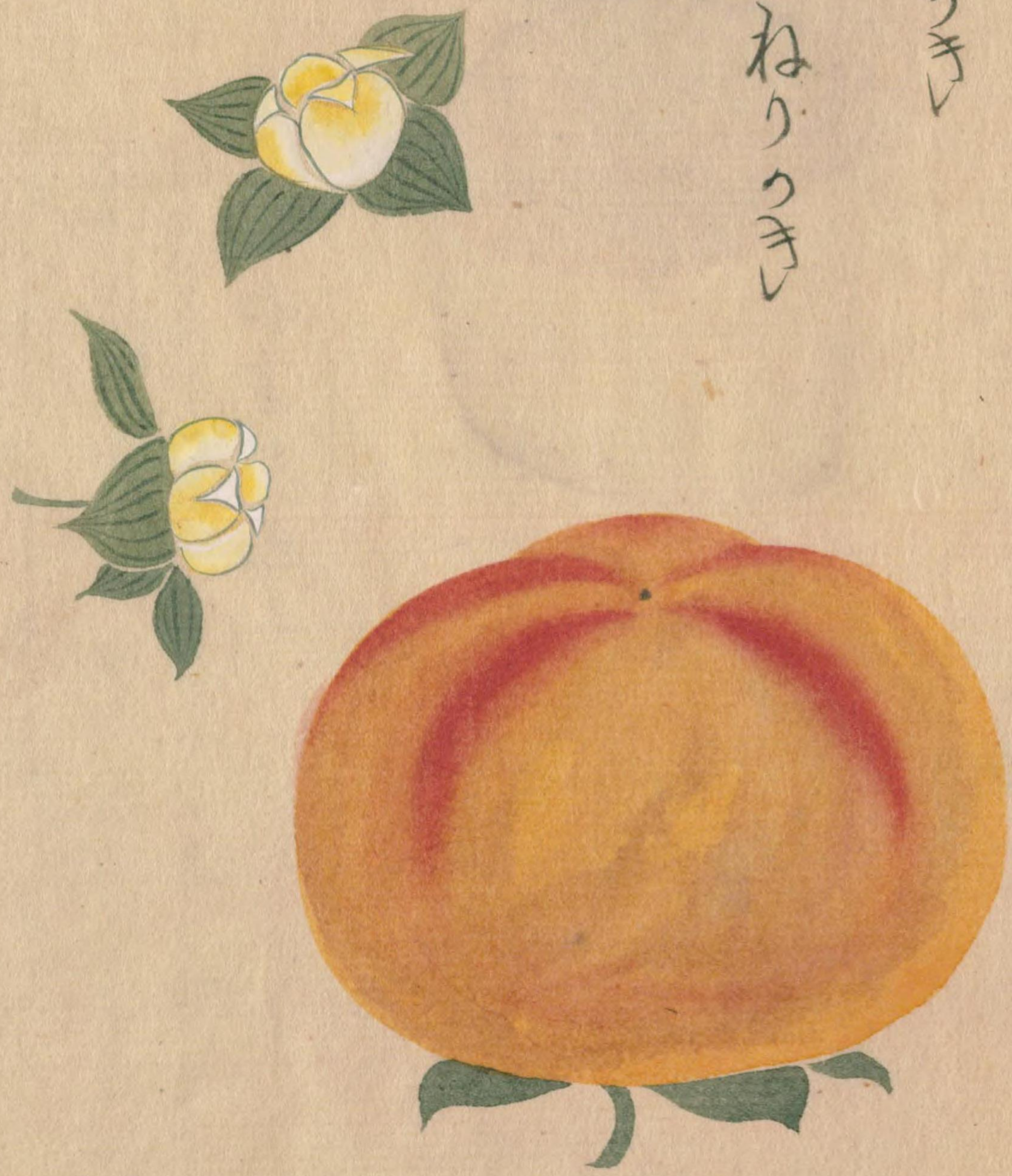
蜜丸 朱實（共同上） 柹樹（救荒本草）

人家庭際ニ多く栽ゆ樹皮黒色老する時ハ鱗甲をなし葉ハ牛膝ニ似て厚く春月葉の間ニ黄色四瓣の花を開く形罍の如し

紅柹（集解） だいしようかき

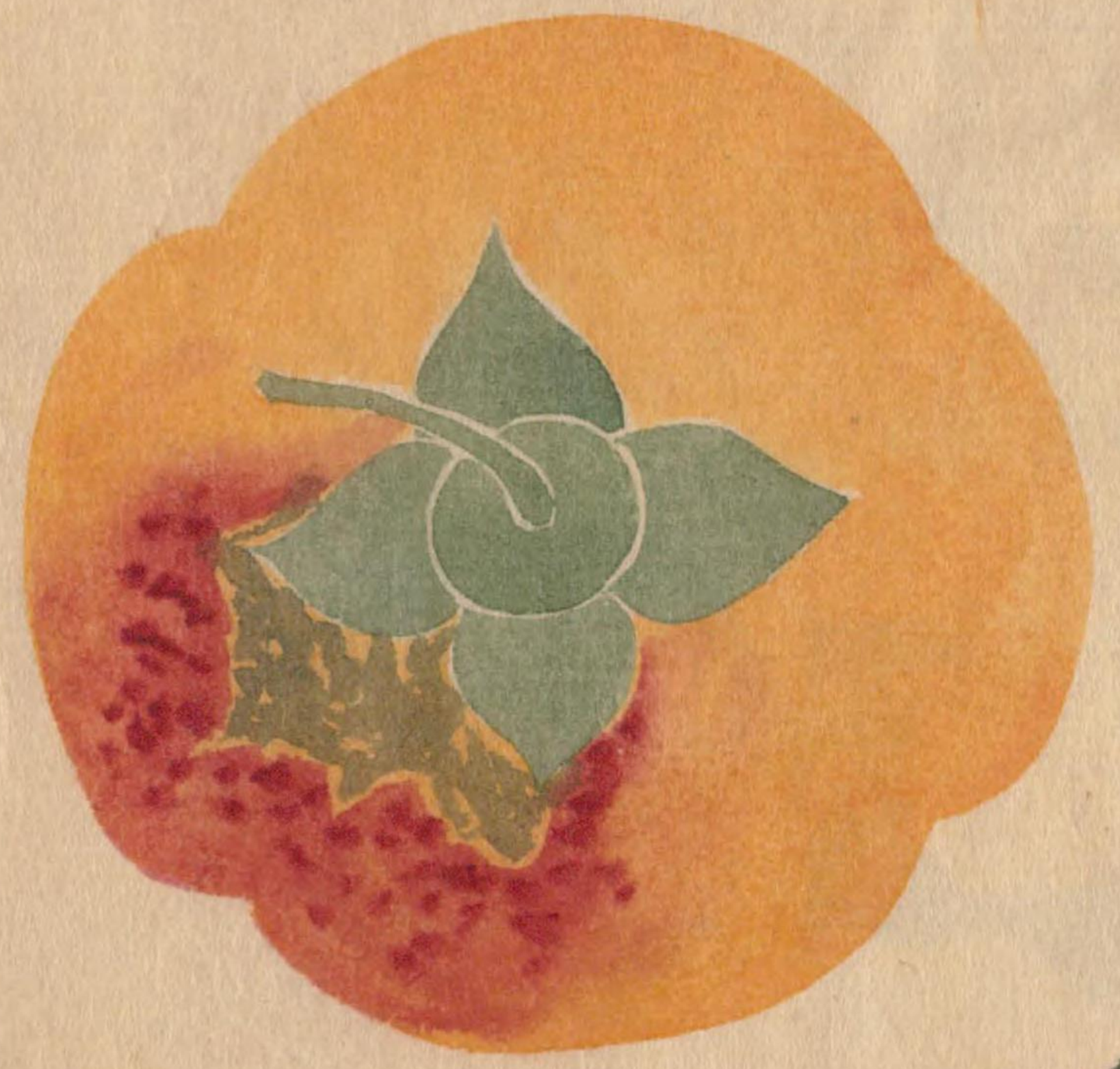
やまとかき こねりかき

和州の御所の村より出る物名産之形圓く四方ニ小く凹をなし始め緑色なる時ハ澁く熟して紅色なる時ハ味ひ甘きこと比類なく上品なり



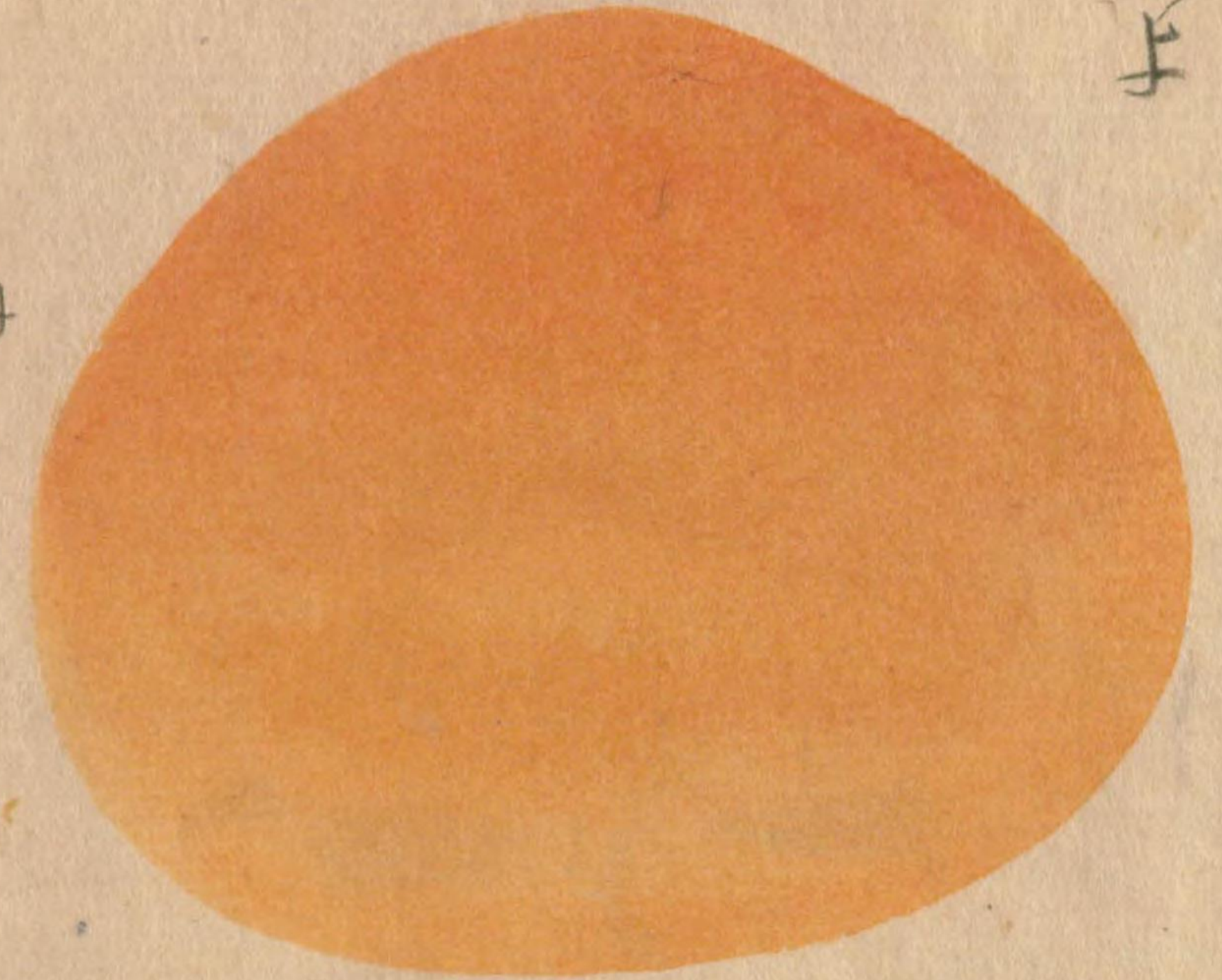
一種　志りくされ

此ごしよがきの如くにして蔕の処ろ自ら裂け渋あつまりて黒色をなし味ひ又甘美なり



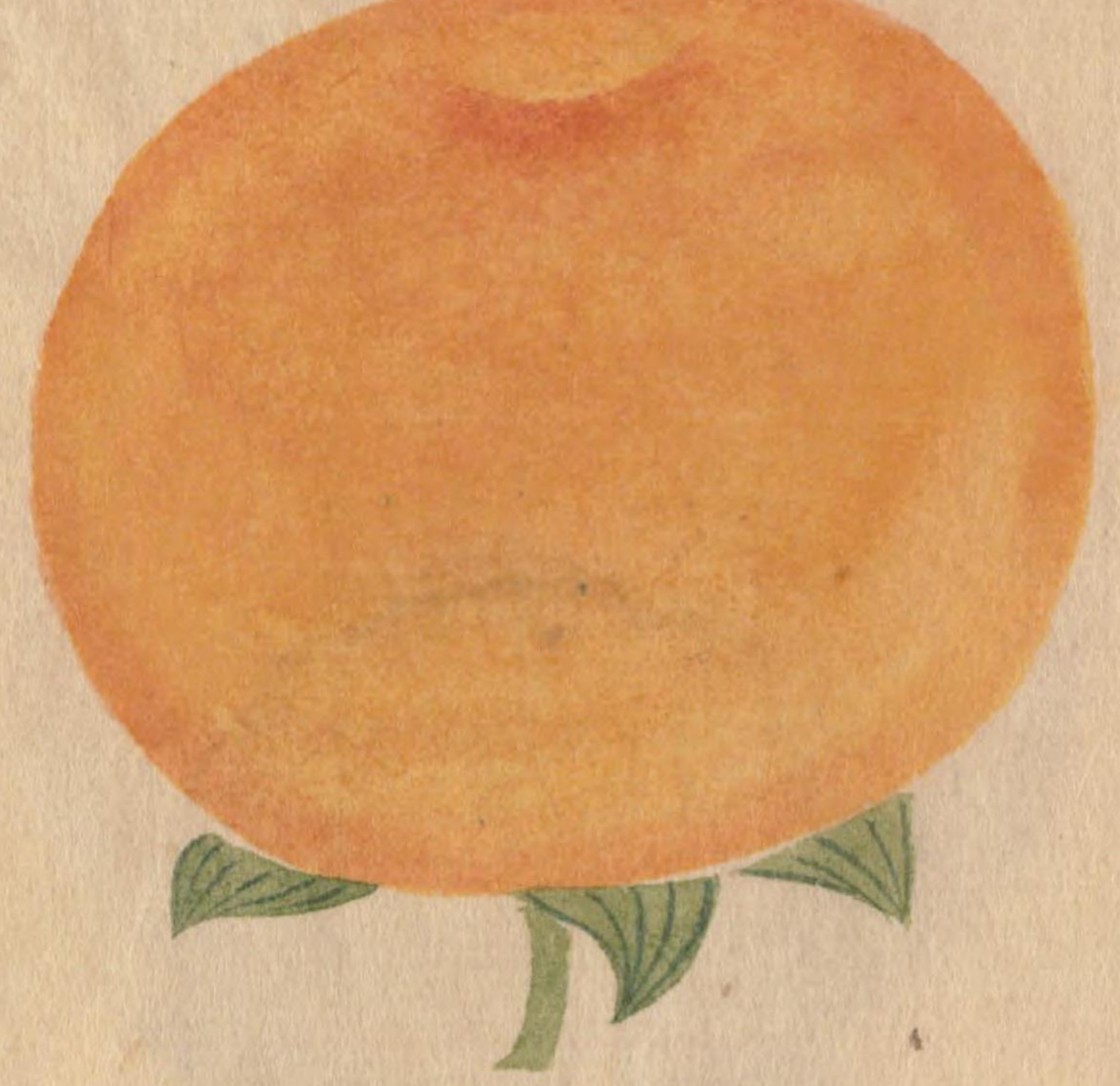
一種　やまだしよ

形ごしよがきに似て圓く扁く頭稍尖りなり熟せれハ紅色味ひ稍劣る



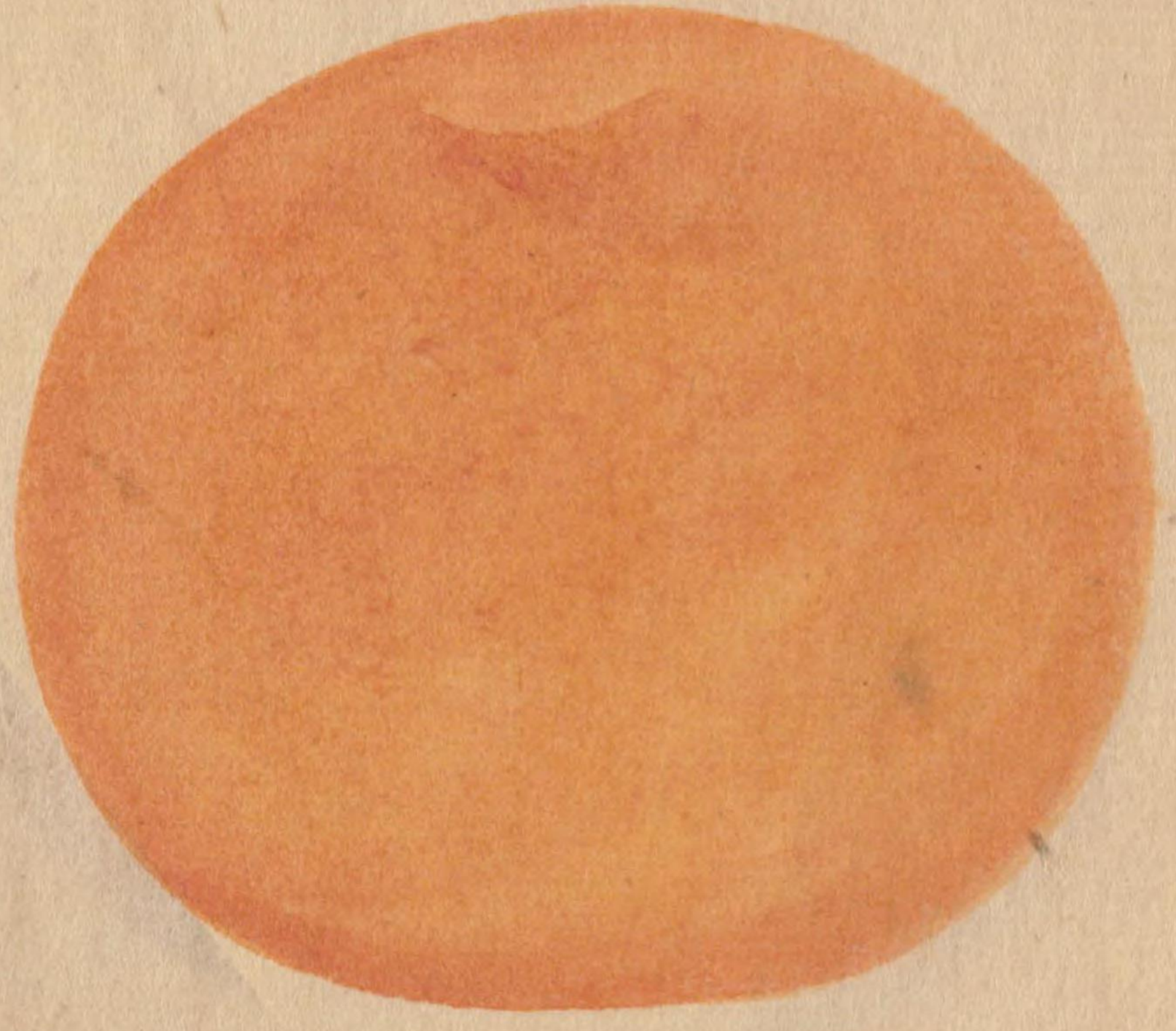
一種　ごし田でん

形ごしよがきに似て頭少し凹み味ひ稍おとれり



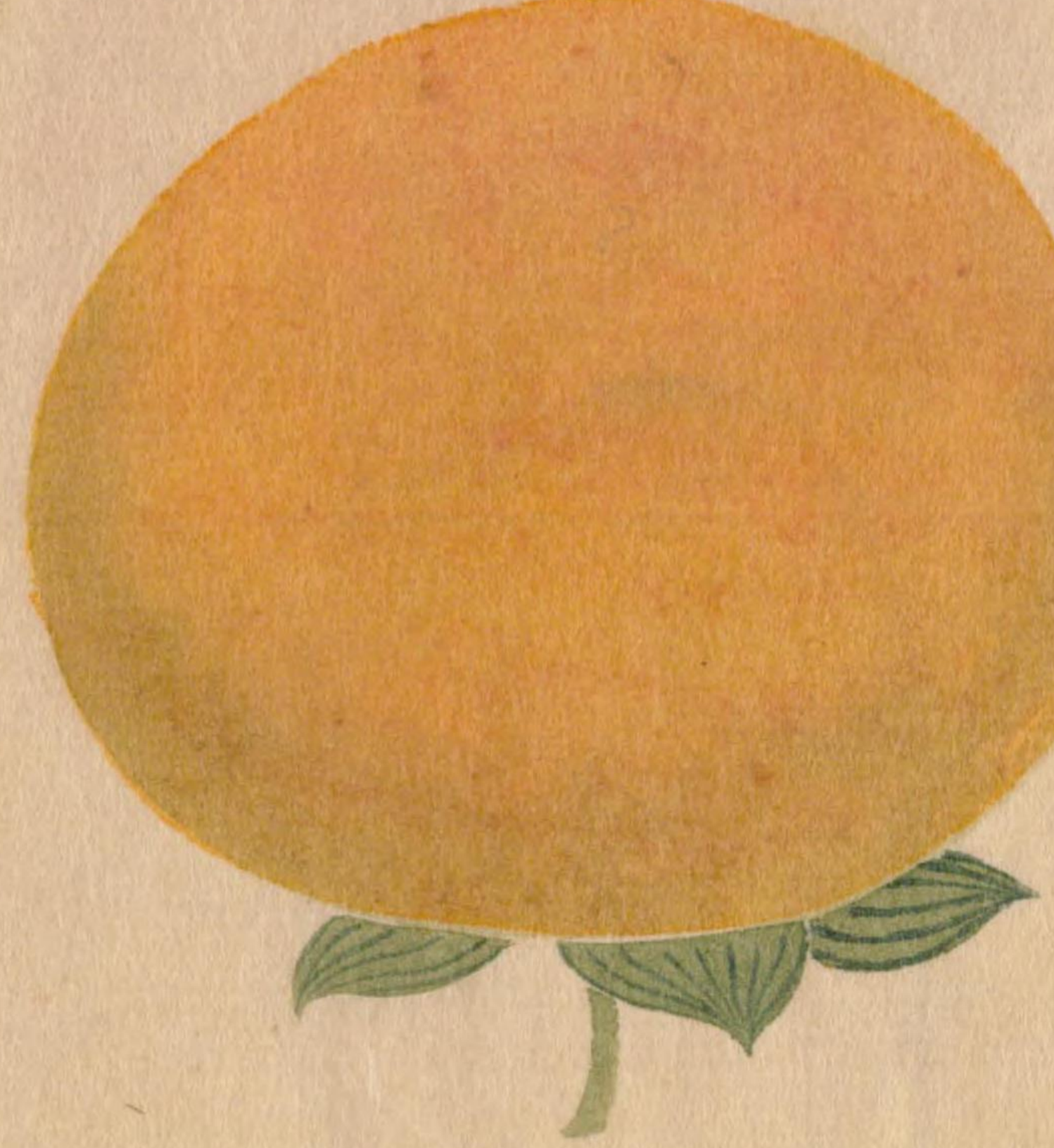
一種　ゆふひまる

形ごし田でんに似て大なること拳の如く圓くして扁く頭少し凹み此物渋味太なるざるゆへ醂柹がきに製するときハ甚上品甘美なり



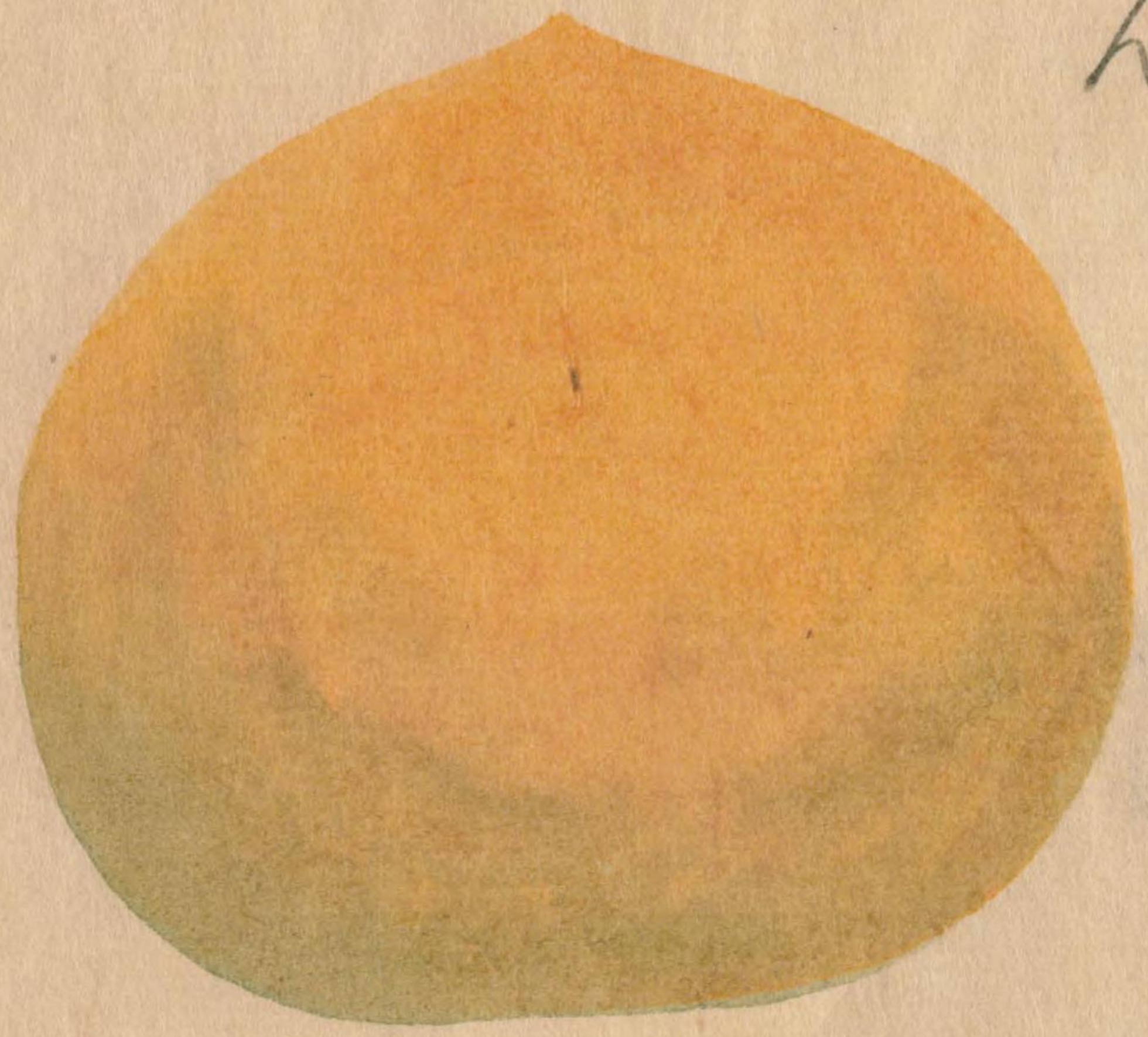
一種　さいじやうがき

藝州廣嶋名産之形おしよかきに似て圓（まる）く扁（ひら）く味ひ澁（しぶ）き故乾柹（ころがき）にして上品之



一種　ゑもん

形ゆふひまるに似て四方稍（やゝ）凹（くぼ）みありて頭稍尖（とが）り此又醂（さはし）柹とするときハ上品（ぜうひん）之



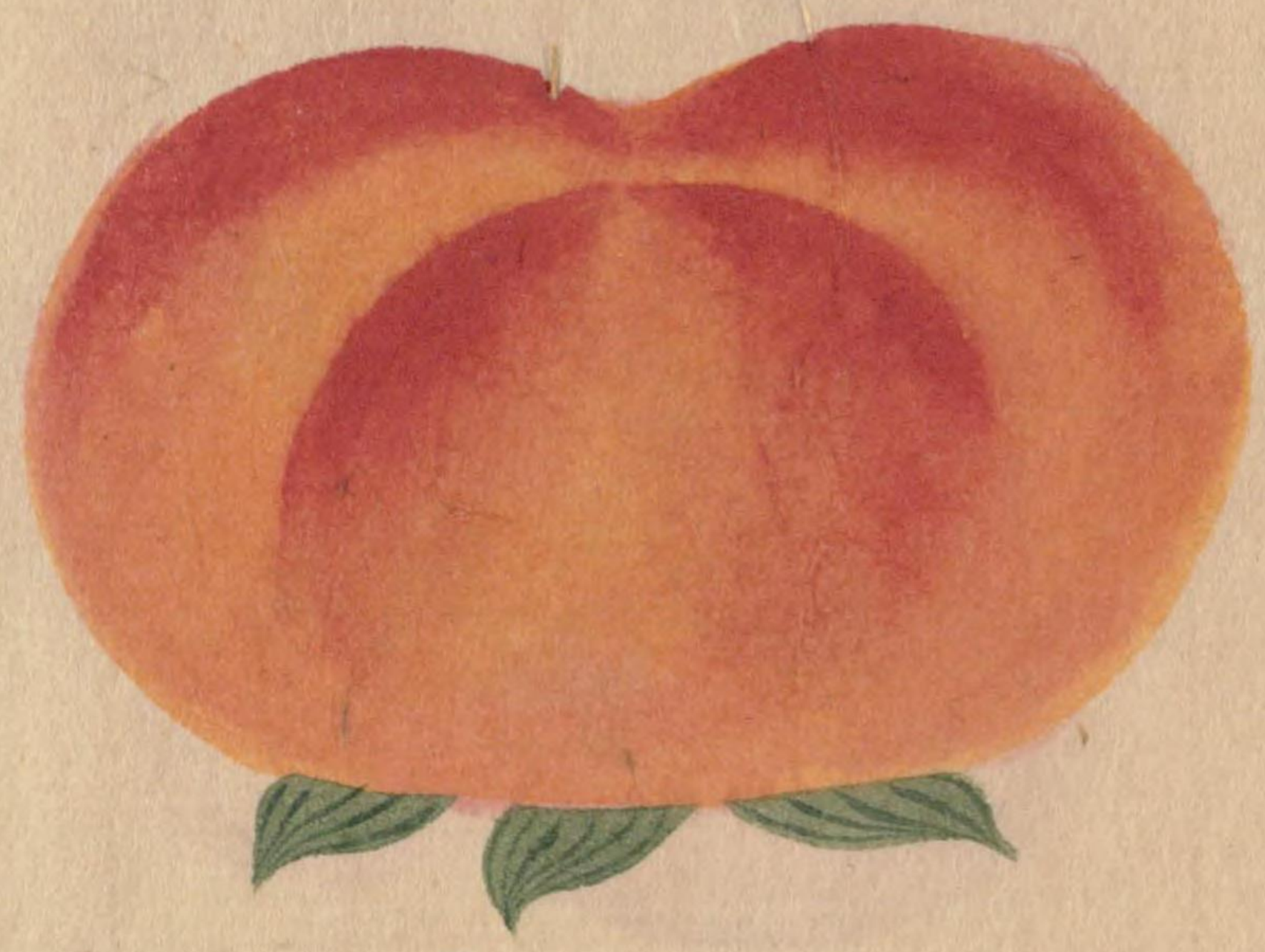
一種　やまゑもん

形ゑもんに似て稍（やゝ）小く頭凹（くぼ）みあり是又醂（さはし）柹となす

朱柹（しゆし）（觽集）

十文字（じふもんじ）

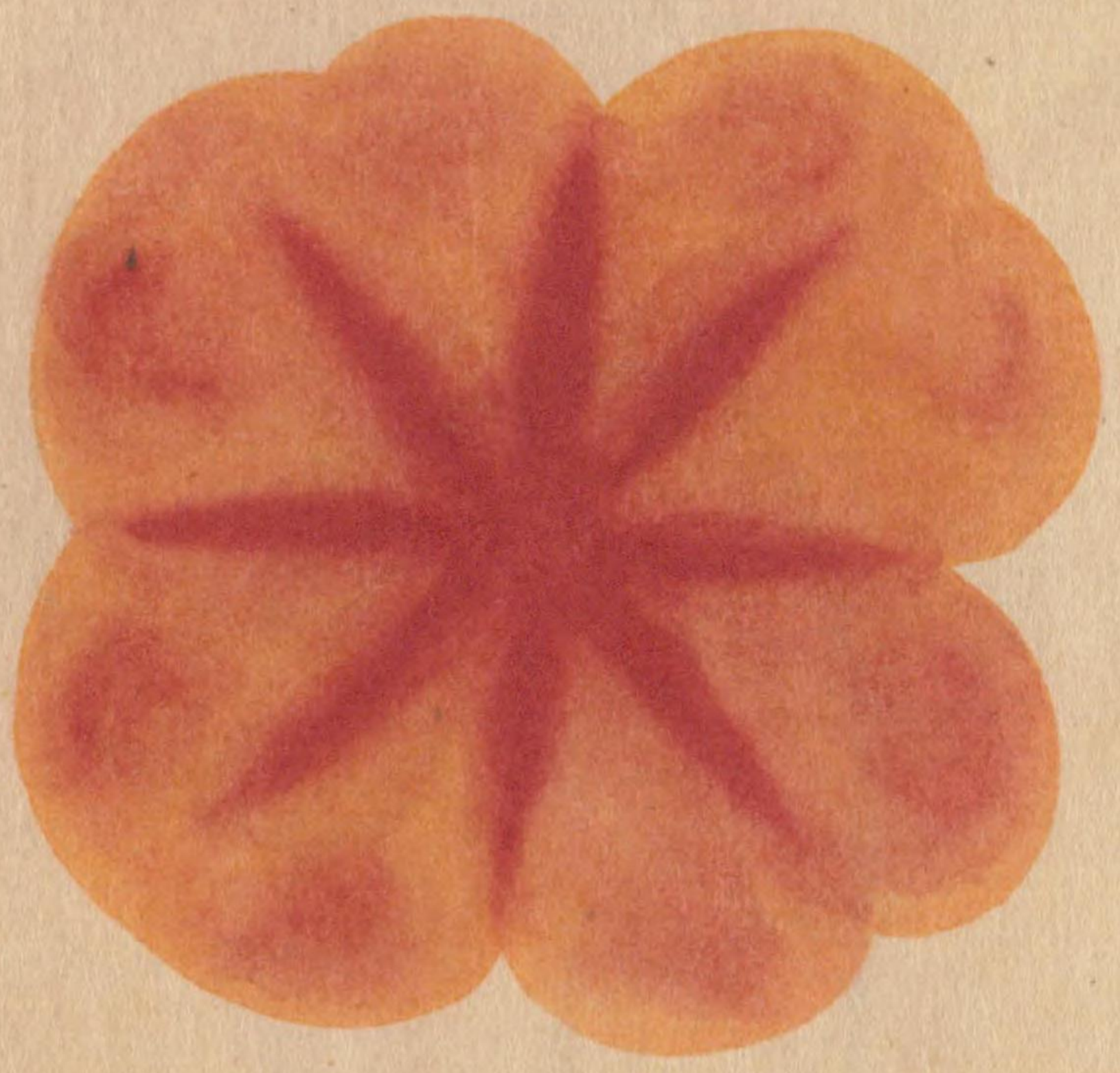
形状ゑもんがきに似て頭に十字（じふじ）の如（ごと）き凹（くぼ）みあり四方も又稍（やゝ）凹（くぼ）みあり熟（じゆく）すれハ朱紅色美し味ひ甘（あま）し

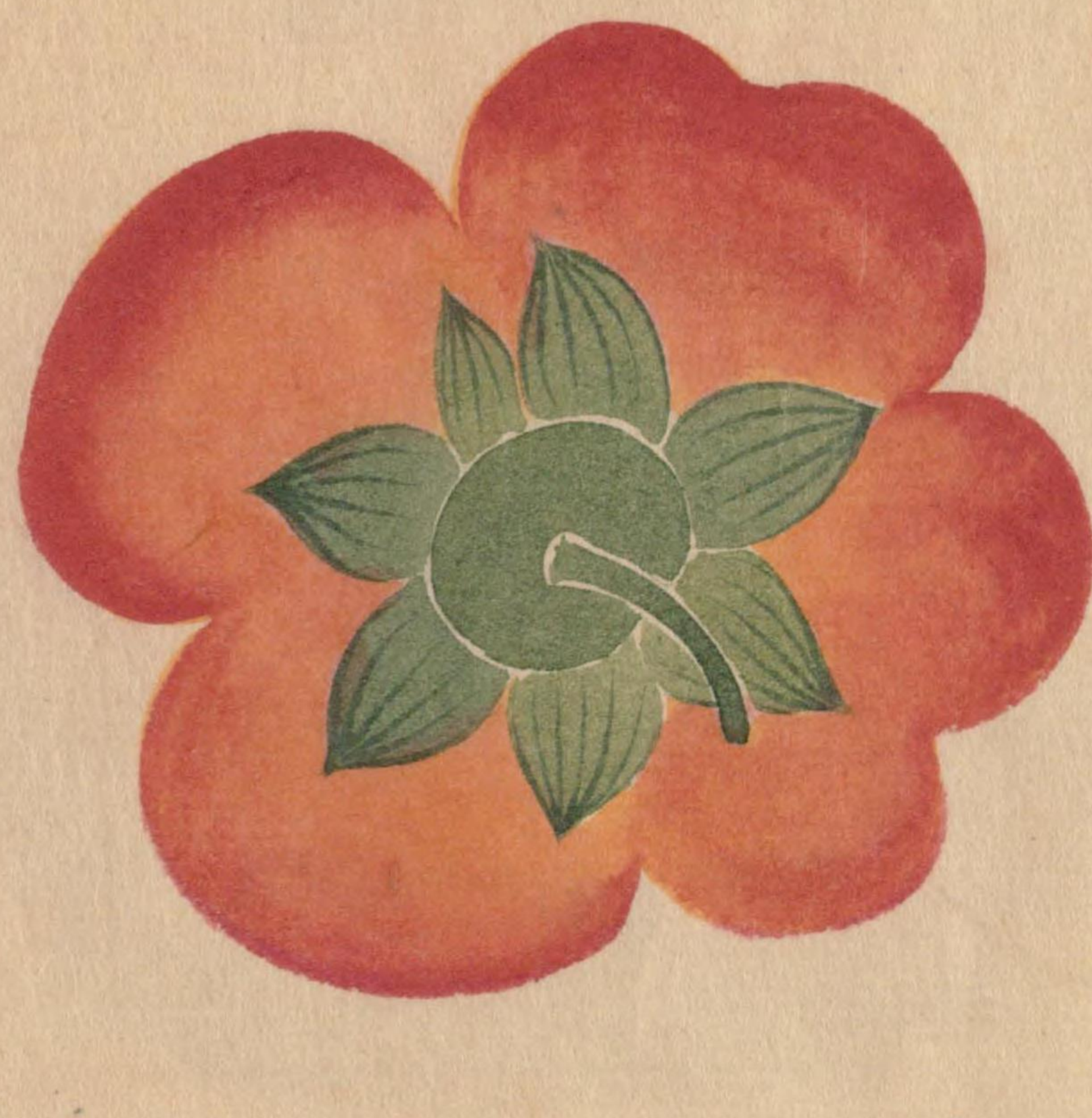


ガラス使用

一種　ひらがき

形十文字（じふもんじ）に似て扁（ひらた）し四方に切（き）れこみありて蔕（へた）に八瓣あり熟（じゆく）すれハ朱紅色味ひ甘し





黄（わう）柿　つくしまる　解集

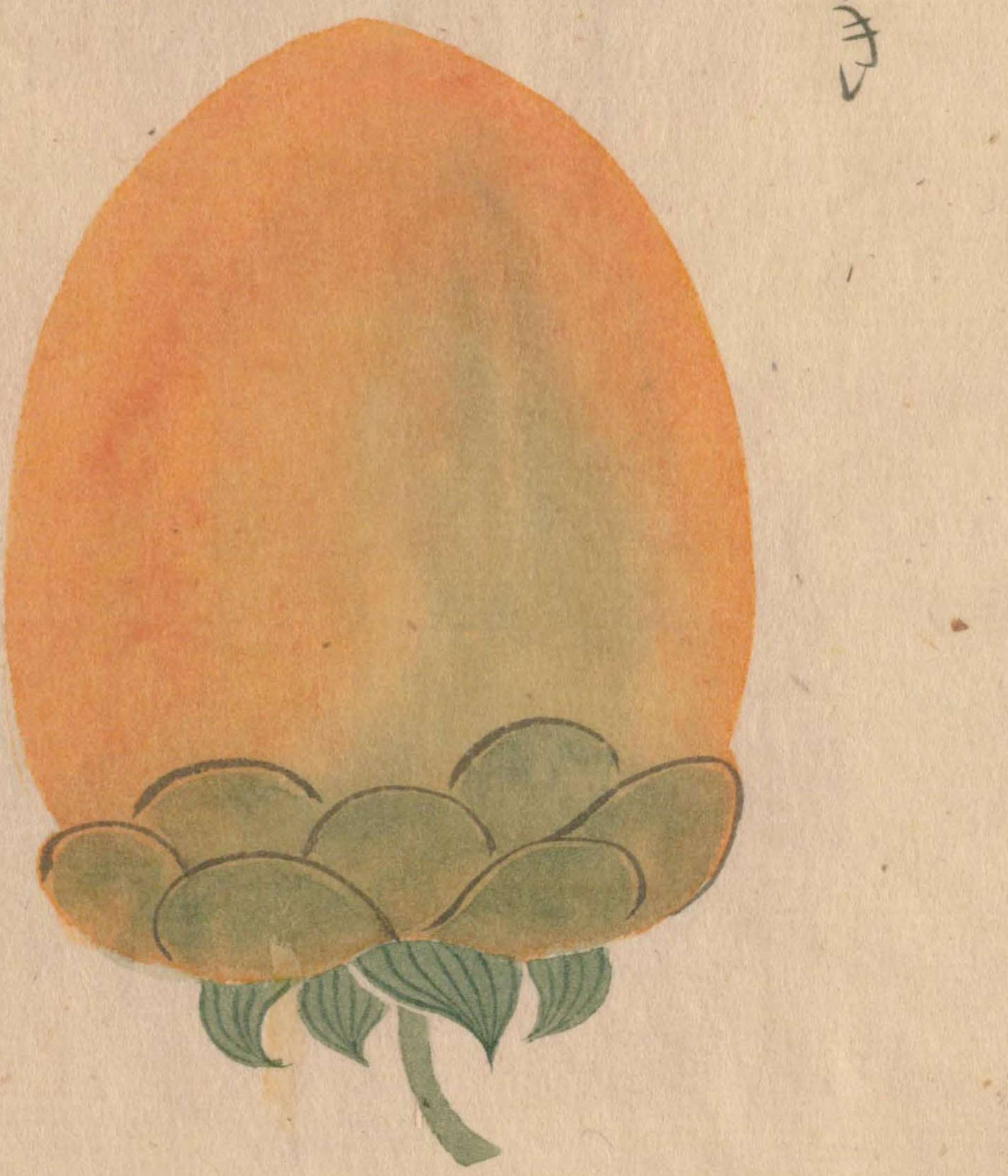
形甚大にして夕日（ゆふひ）まるに似て頭（かしら）稍（やや）尖（とが）りあり熟（じゆく）して黄色一度ハ渋味あり一度ハ甘味になる淡甘に變ずること兩三度に及（およ）ふ

ガラス使用

著（ちよ）蓋（らい）柹（し） 解集

まんさがき　れんげがき

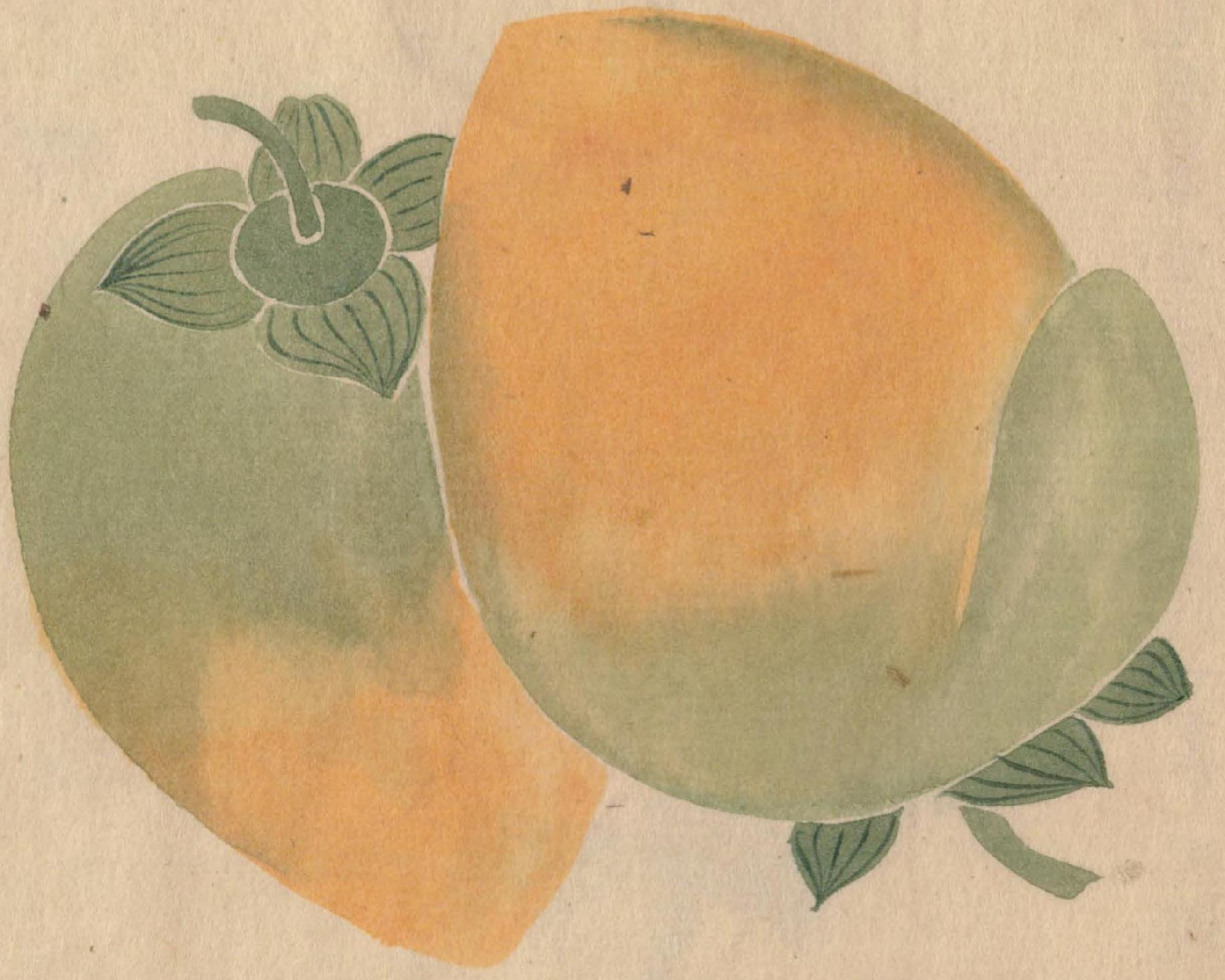
武州岩槻（いはつき）より出（いづ）
形状つるの子の如（ごと）くに
して長く大に蔕（へた）の上に
蓮華（れんげ）の如き肉高く起
る熟（じゆく）して黄色味ひ淡
甘し



牛（ぎう）心（しん）柹（し） 解集

つるの子

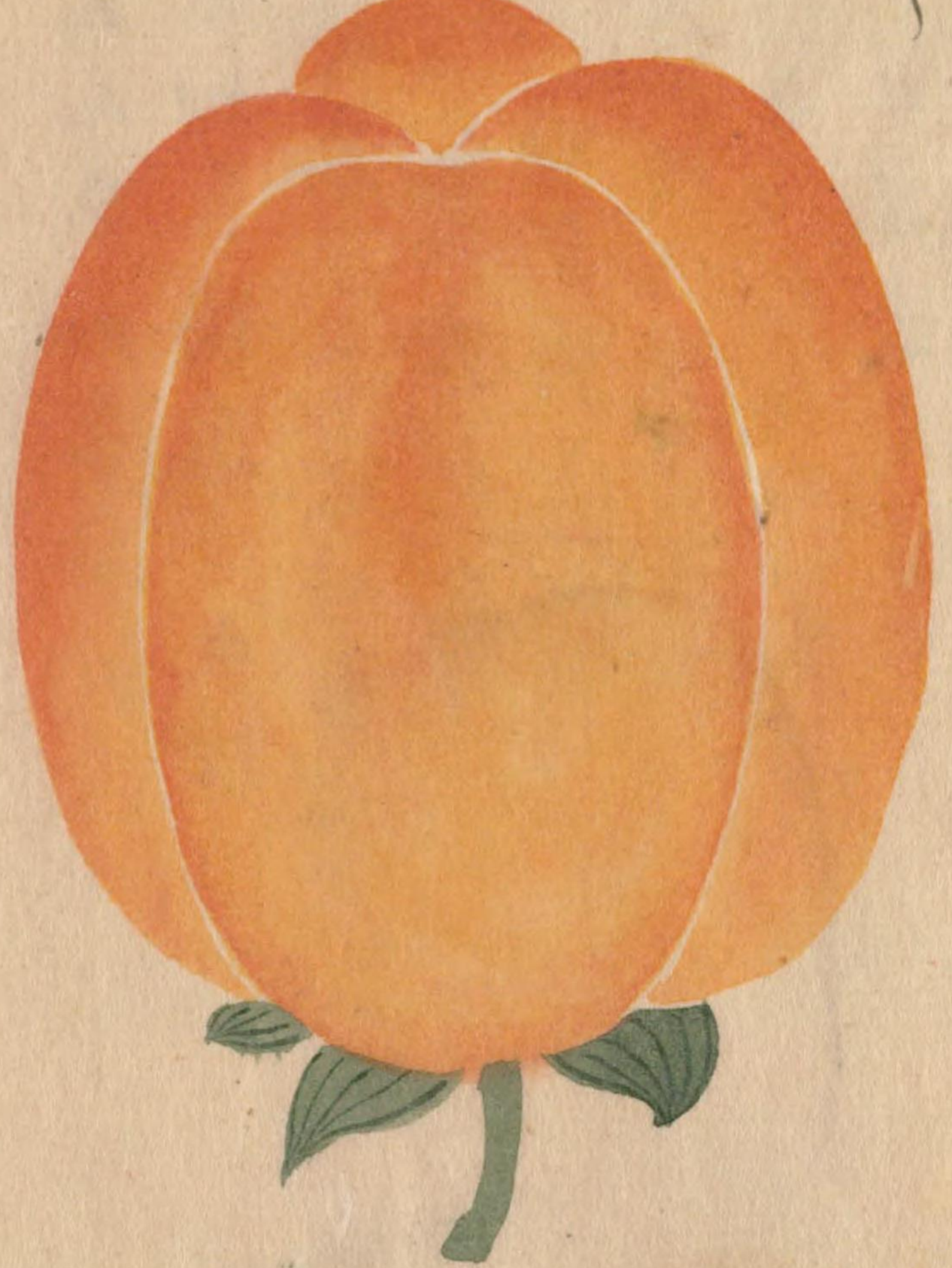
形状まんさがきに似て
蓮花の如き肉なし生緑
より渋（しぶ）味（み）なし甘味下品之
熟（じゆく）すれども黄色なり



ガラス使用

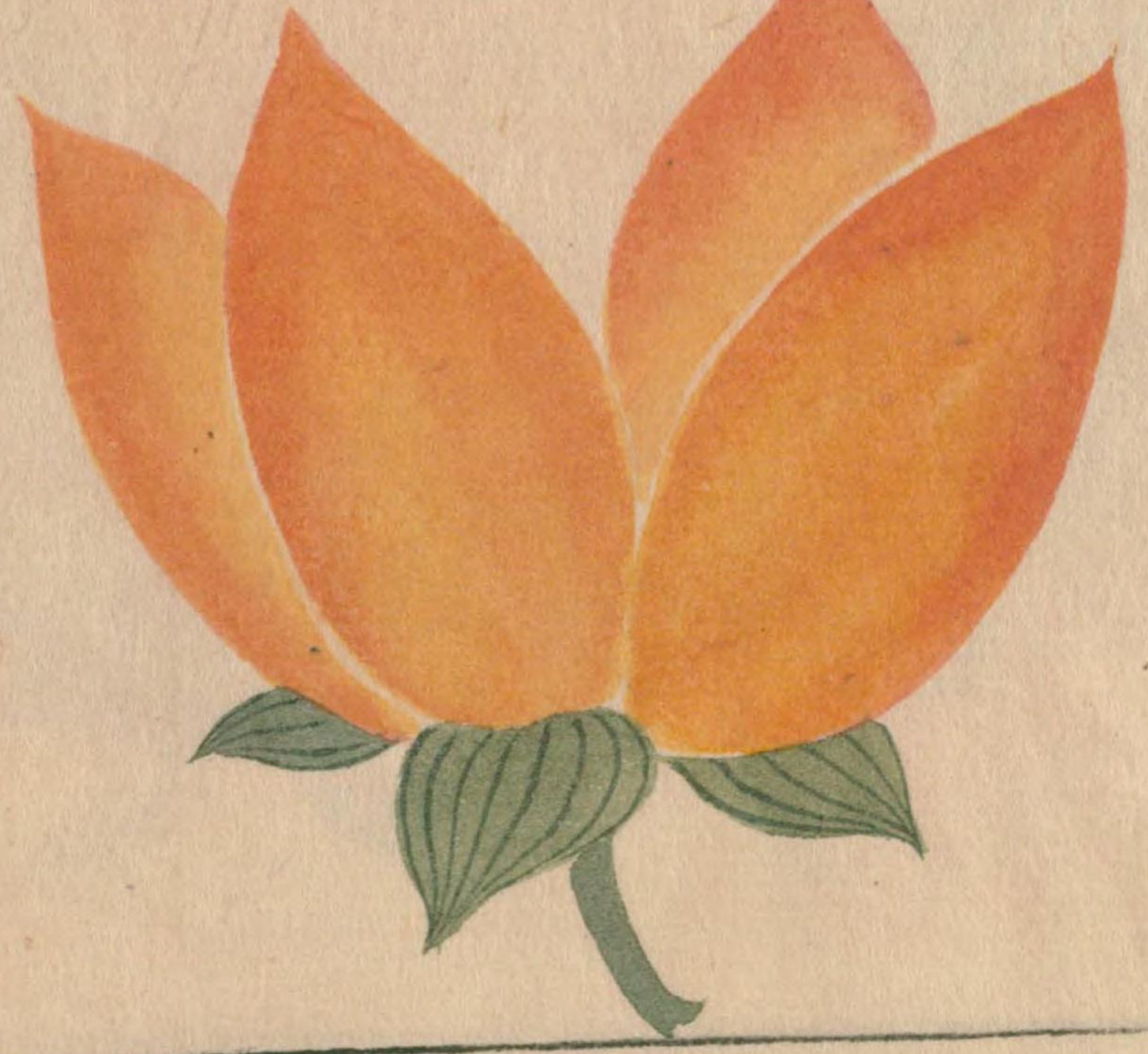
一種　ちさい

形状つるの由子に似て四方刻缺あり
と平(ひら)たきもの如(ごと)く渋味強(つよ)く醂(りん)柹(し)と
なすべし



一種

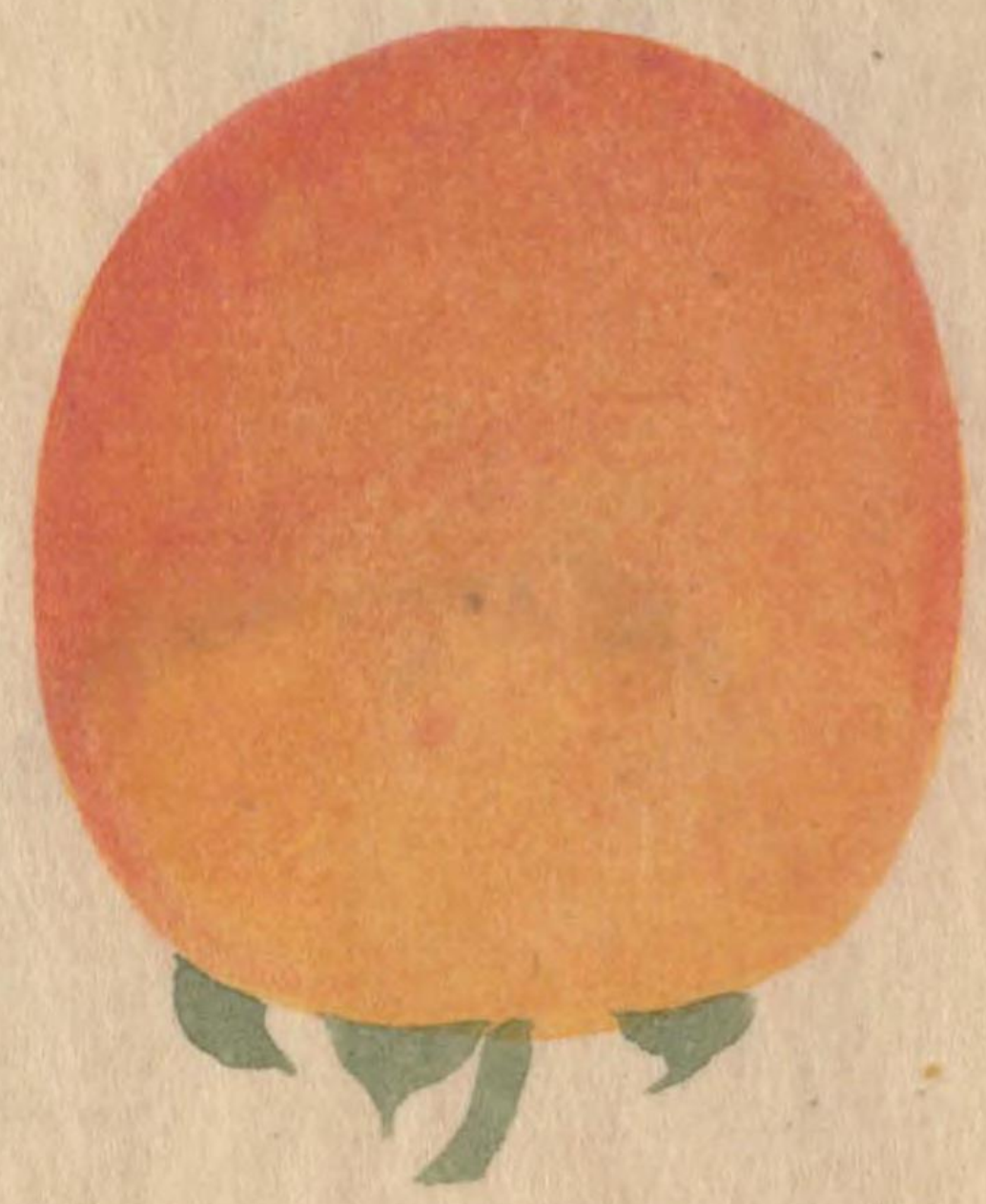
尾州名古(なご)屋(や)に産(さん)に一蒂四瓣
に分(わか)れて形れんげうの花のごと
し奇(き)品(ひん)なり



蒸(ちよう)餅(へい)柹(し)（觧集）

まる

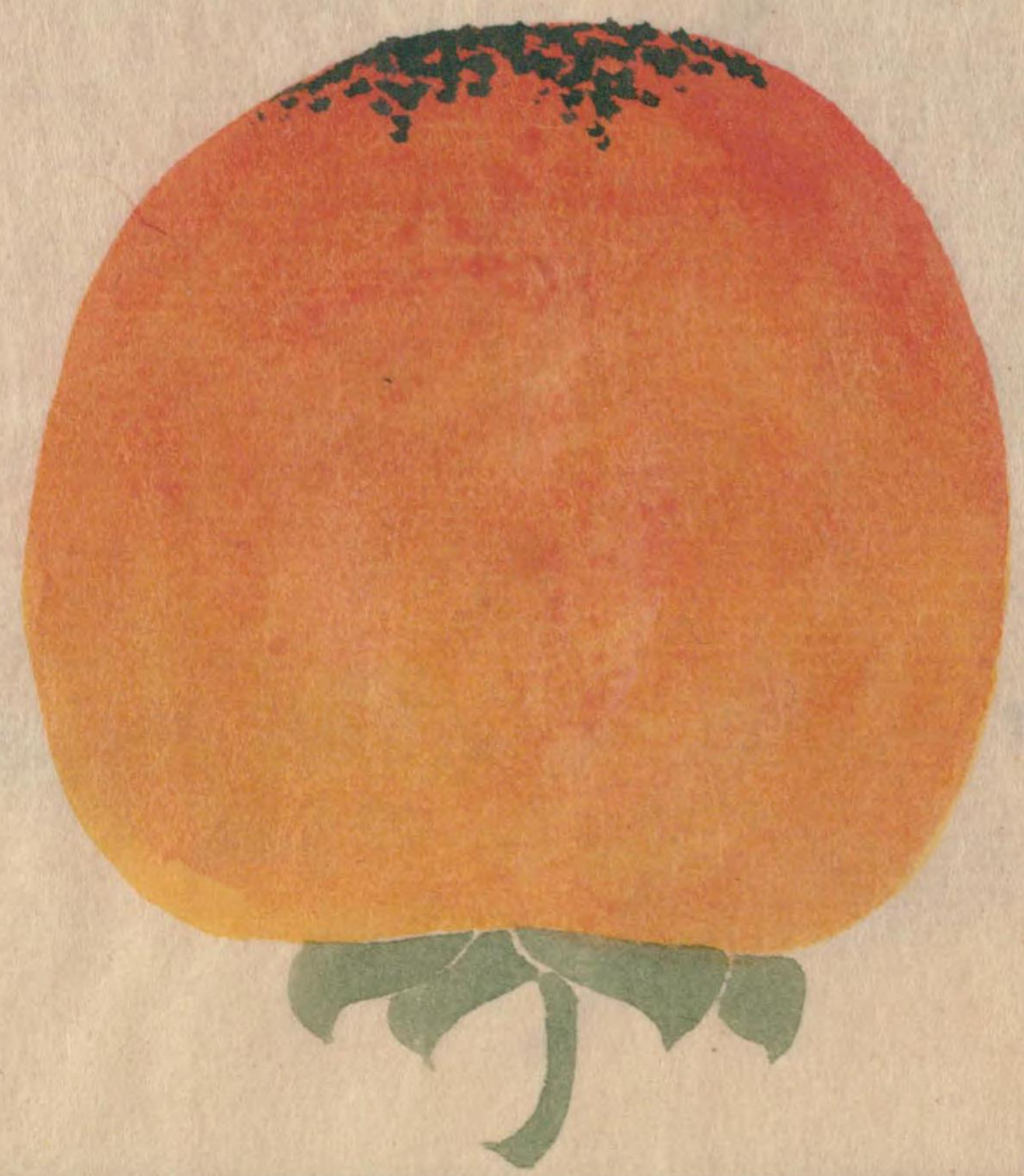
形状小く圓(まろ)
くて頭尾平(ひら)
かにて十月熟し
紅色にして味
ひぜんじに勝(まさ)
れり



一種

きざらし　ぜんじ

形状圓くして長く頭(かしら)稍(やや)平かにして
黒点あり肉中(にくちう)胡麻(ごま)の如き斑(まだら)
あり味ひ甘く又大なるも百目(ひやくめ)なき
と云

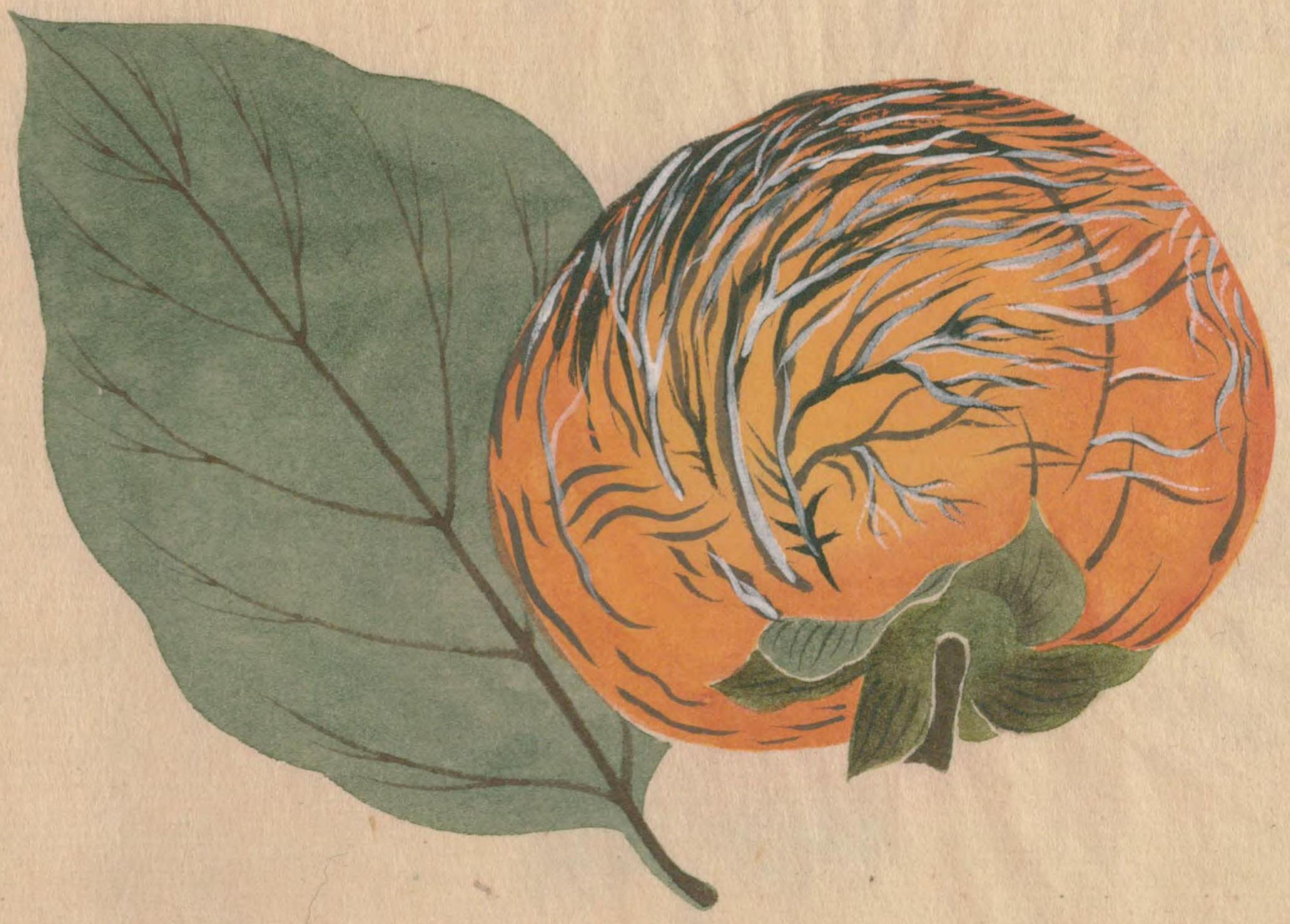


一種

ゑつき　もくじつき

もしつき

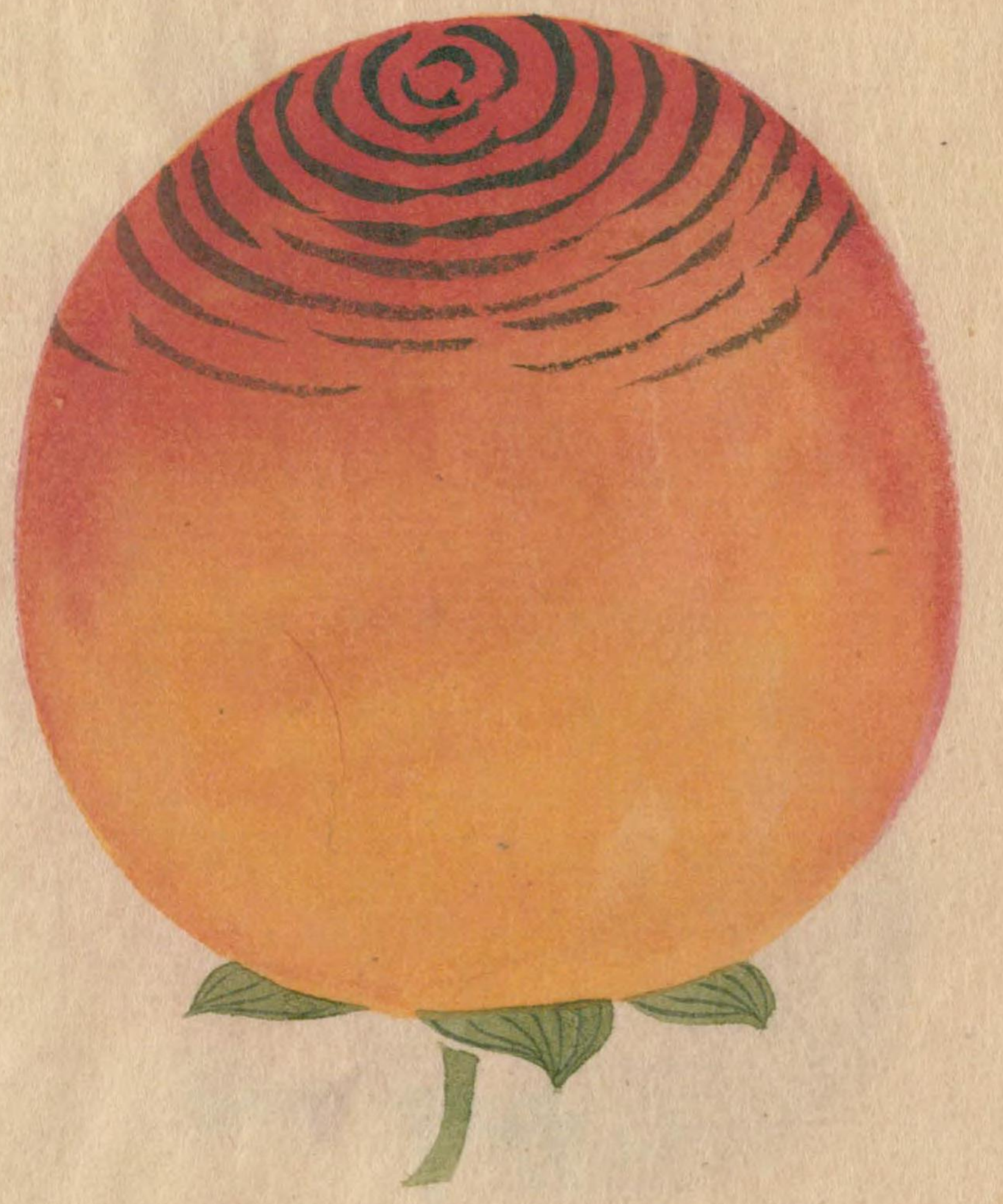
形甲州まるに似て
皮に或ハ書（しよ）或ハ画（ぐわ）に
似たる黒斑（こくはん）を生し味
ひ甘く上品なり



一種

うつまる

形ちんしに似て長く
頂（いたゞ）き平にして頭（かしら）に小黒き
斑あるをうつまきの
如し故（ゆへ）に名つく味ひ甘
美なる事諸（しよ）柿にすく
れり

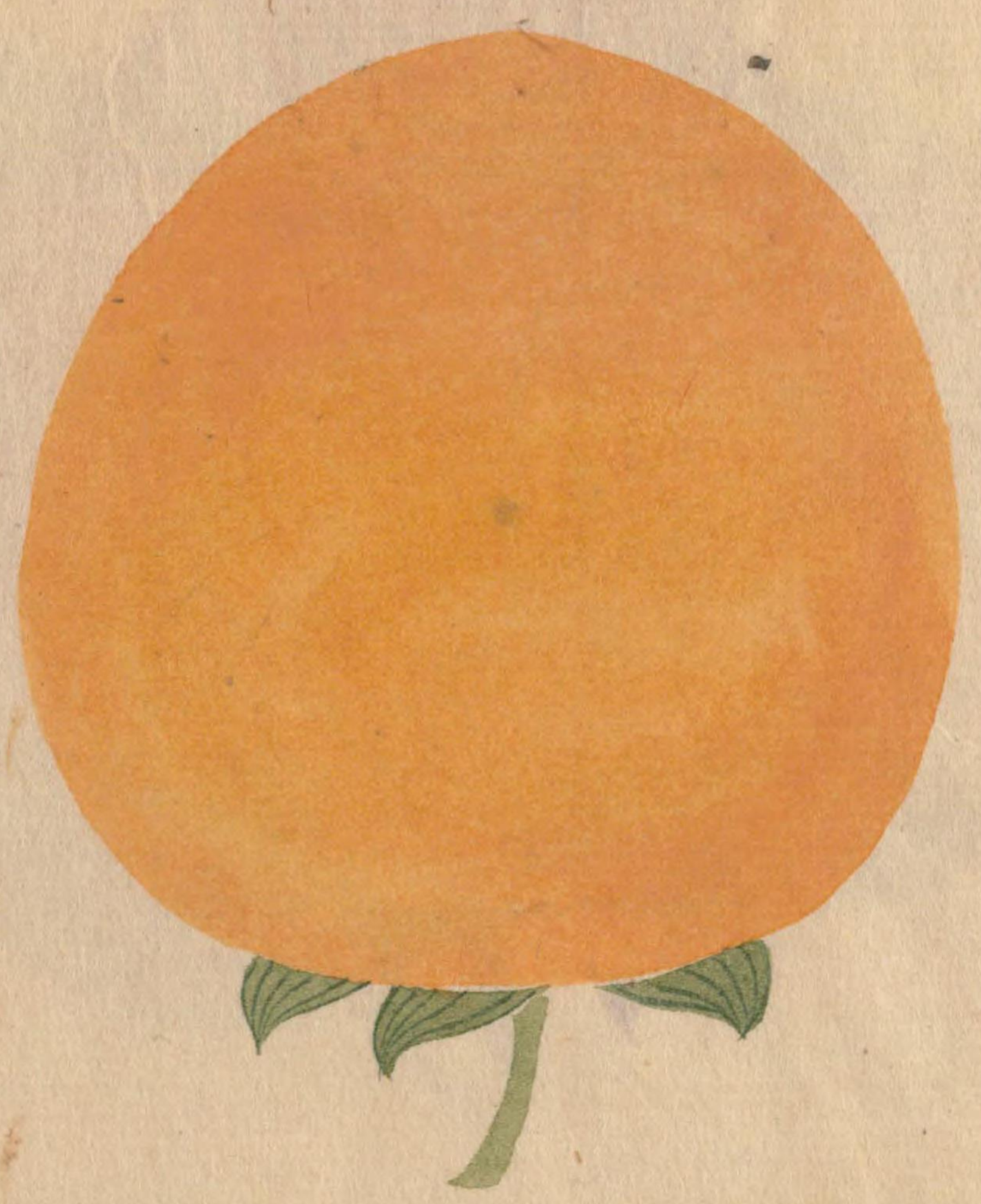


一種

甲州（かうしう）まる

ちんけんまる

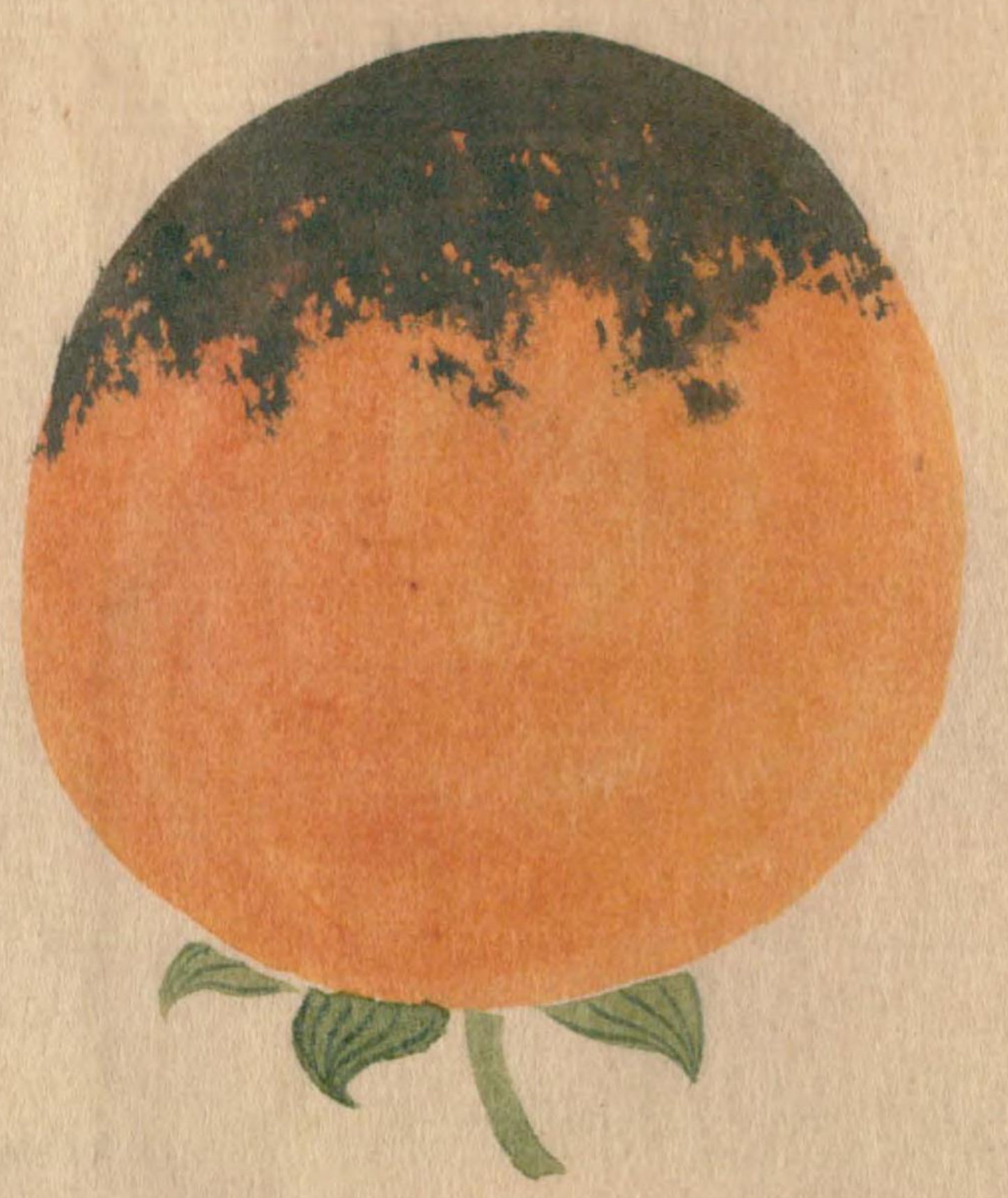
形状ちんしに似て下廣（ひろ）く熟（じゆく）して黄色を帯ぶ味ひ稍（やゝ）渋（しぶ）く後（のち）甘（あま）し



一種

ゑがき

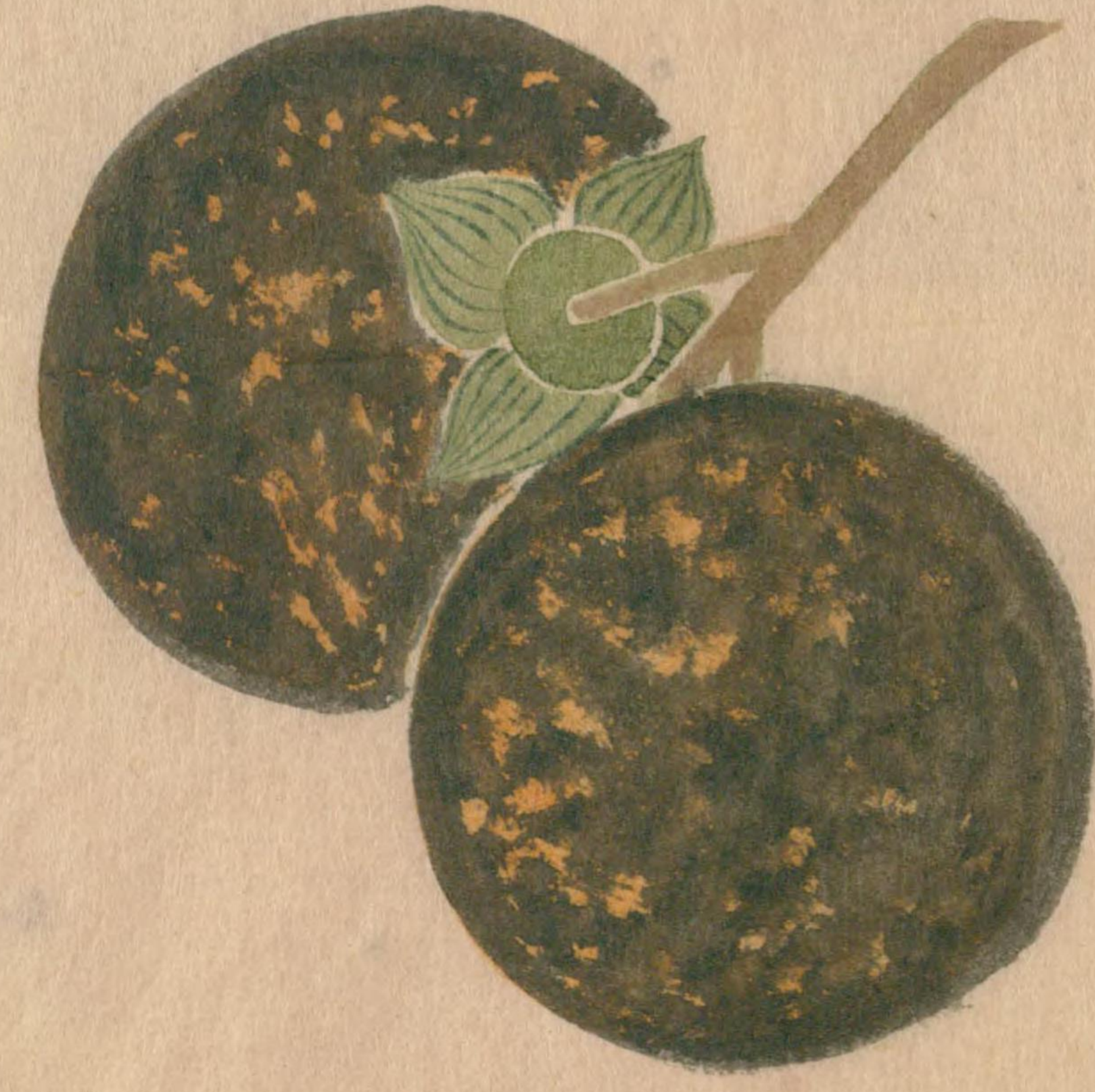
形まるに似て頭（かしら）稍（やゝ）尖（とが）り初（はじめ）より渋味なく冬（ふゆ）に至りて落（おち）ずして木に着霜を経て熟（じゆく）する時ハ皮黒色味ひ甚（はなは）だ甘く汁（しる）多し



一種

くろがき

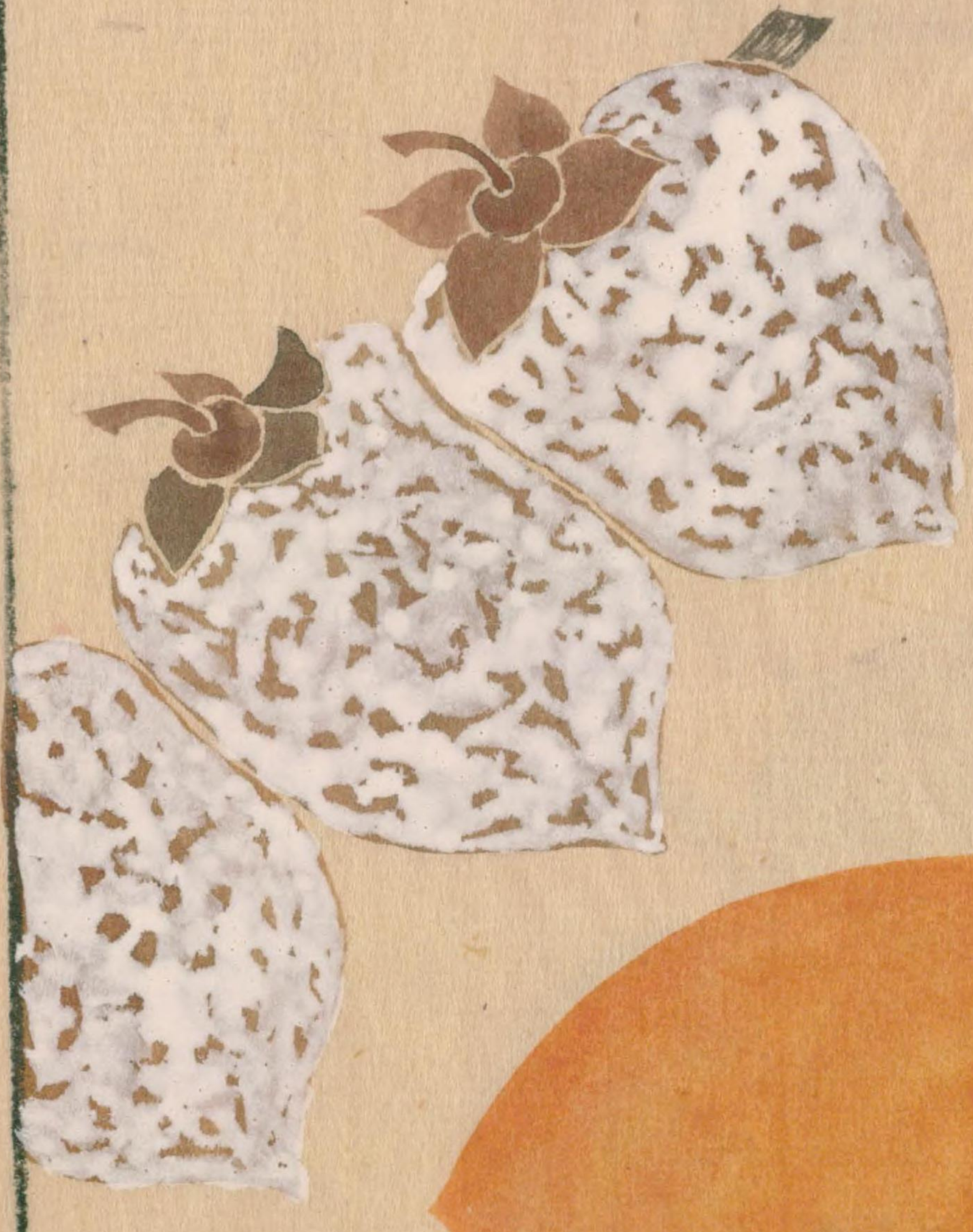
形正円（まんまる）にてゑがきに似て稍（やゝ）小（ちいさ）く秋後（しうご）木に着て熟（じゆく）すれハ全躰（ぜんたい）黒色漆（うるし）の如（ごと）く味（あぢは）ひ甘し



ガラス使用

塔柹（とう し）　くしがき

しぶがきの形長きも丸（まる）きも皮（かは）を去（さり）串に貫（つらぬ）き乾（かわか）したる物（もの）なり

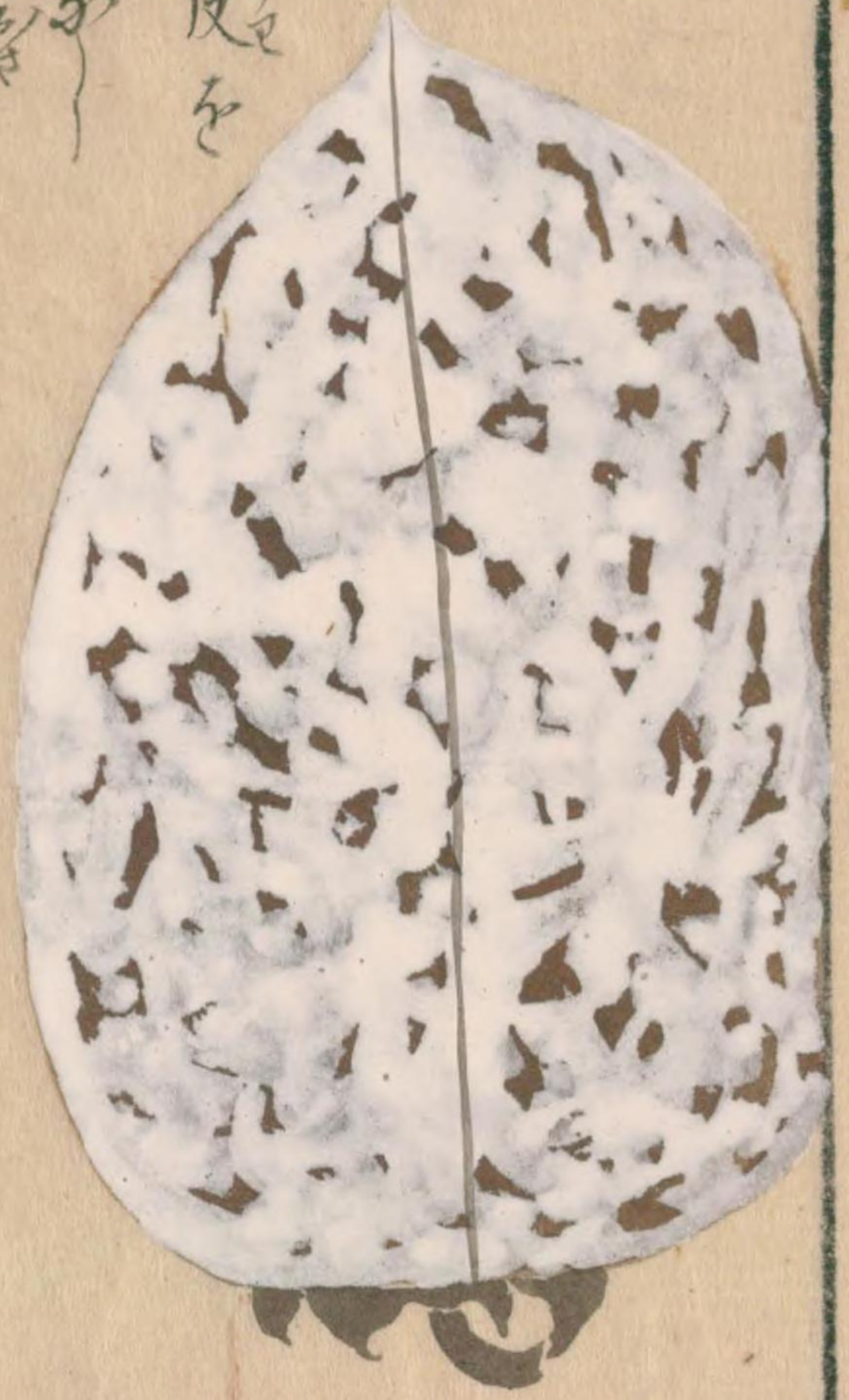


烘柹（こう し）　ぢゆくし

稲草（わら）を器中に布（しき）きしぶがきを入れ置（お）く時（とき）ハ自（おのづか）ら熟（じゆく）して渋味去り味（あぢはひ）甘（あま）し

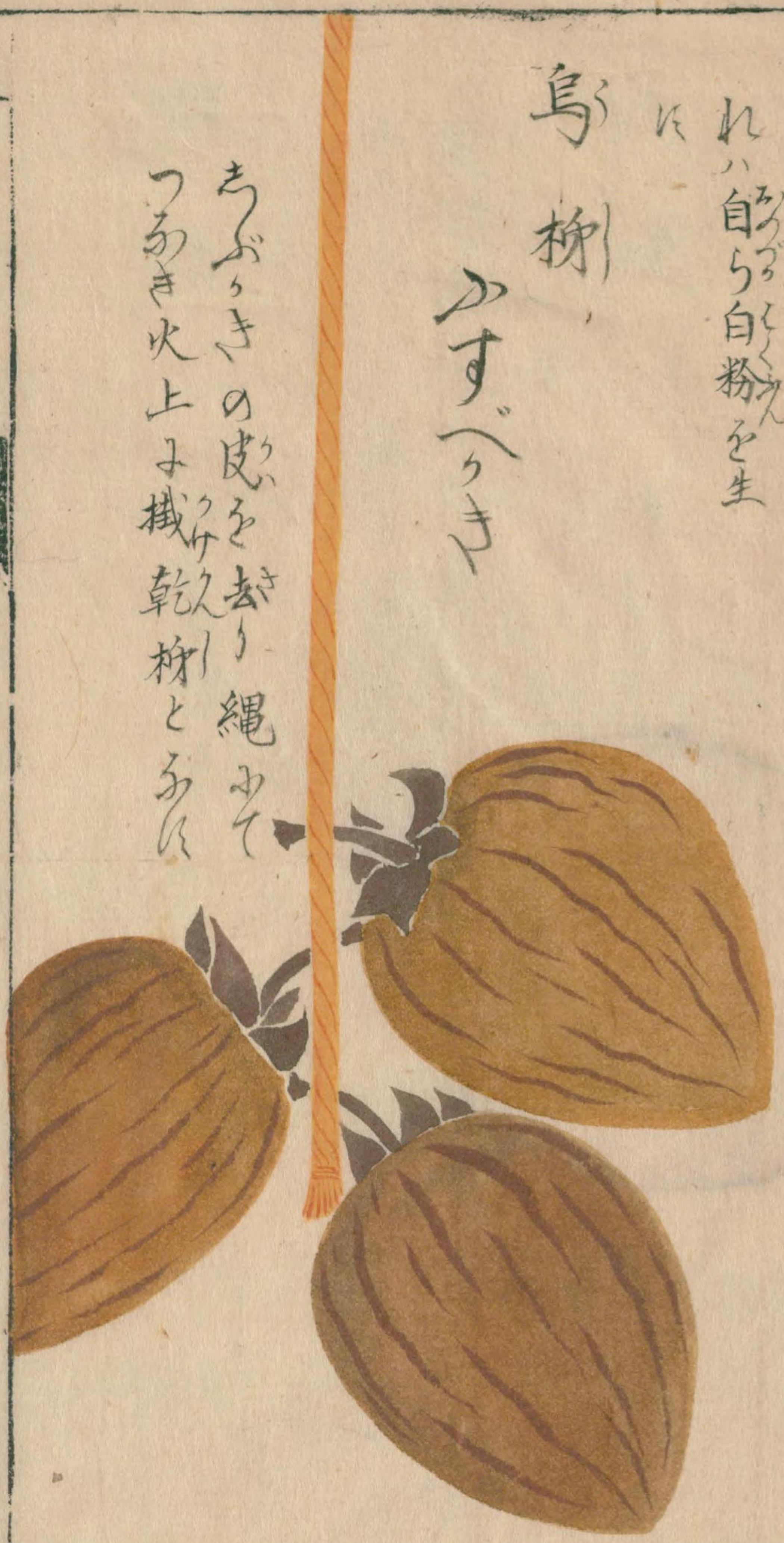
白柹（はく し）　ころがき

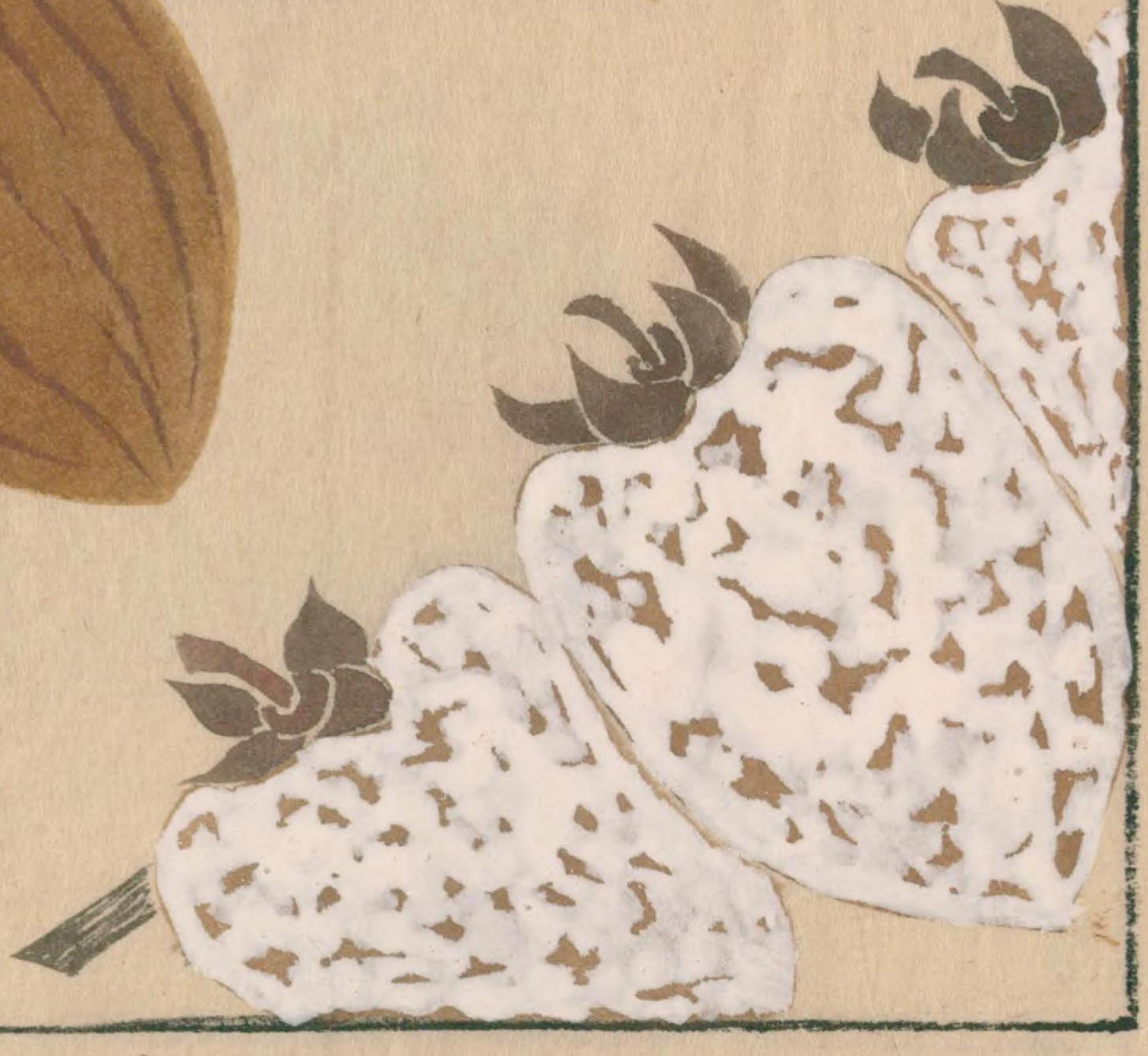
しぶかきの皮（かは）を去（さ）り乾柹（かんし）となしこれを器中に蔵（おさ）むれハ自（おのづか）ら白粉（はくふん）を生ず



烏柹（う し）　かすべがき

しぶがきの皮（かは）を去（さ）り縄にてつなぎ火上に燻乾（くんけん）し乾柹となす





ガラス使用

醂柹　たるぬき

西土にてハ諸の水につけて渋味を去と云本邦にてハ皆酒器へしぶかきを入れ酒を吹罨く時ハ渋味去て味ひ甘し

柹餻　かきこづき

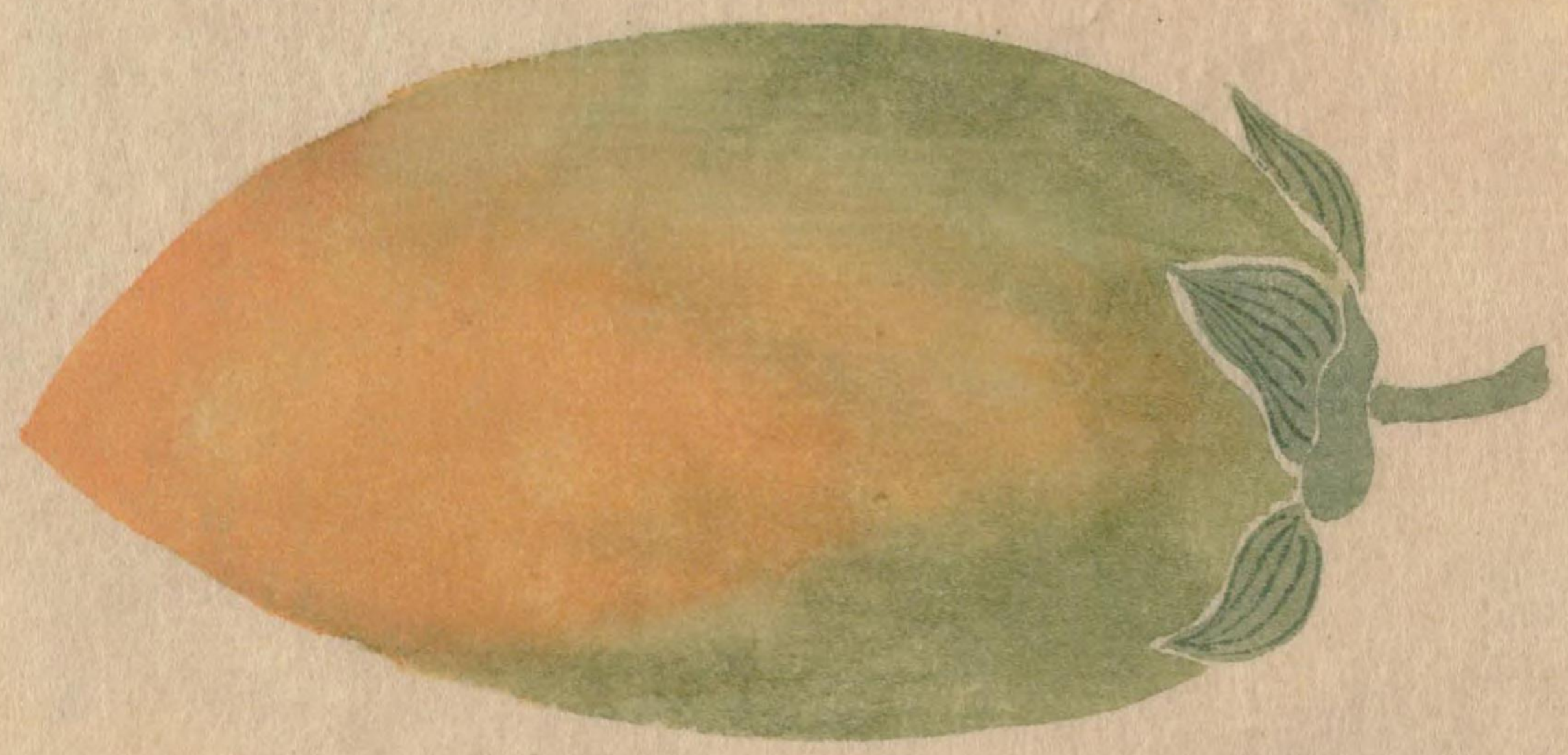
西土にてハ糯米を用ゆ本邦にてハ粳米或ハ大麥を炙り粗き末となし渋かきの堅き又烘柹を入れ檮拌匀て餻となしときハ渋味去りて甘くなり

椑柹　このがき

柹中にてハ下品にて山野に栽て大樹となる実小なるハ一寸許り長くして尖りあり霜を経ても渋味去りかたし緑色なるをとりて水へいれ渋漆に作る又塔柹となるなり

一種　みづまちや

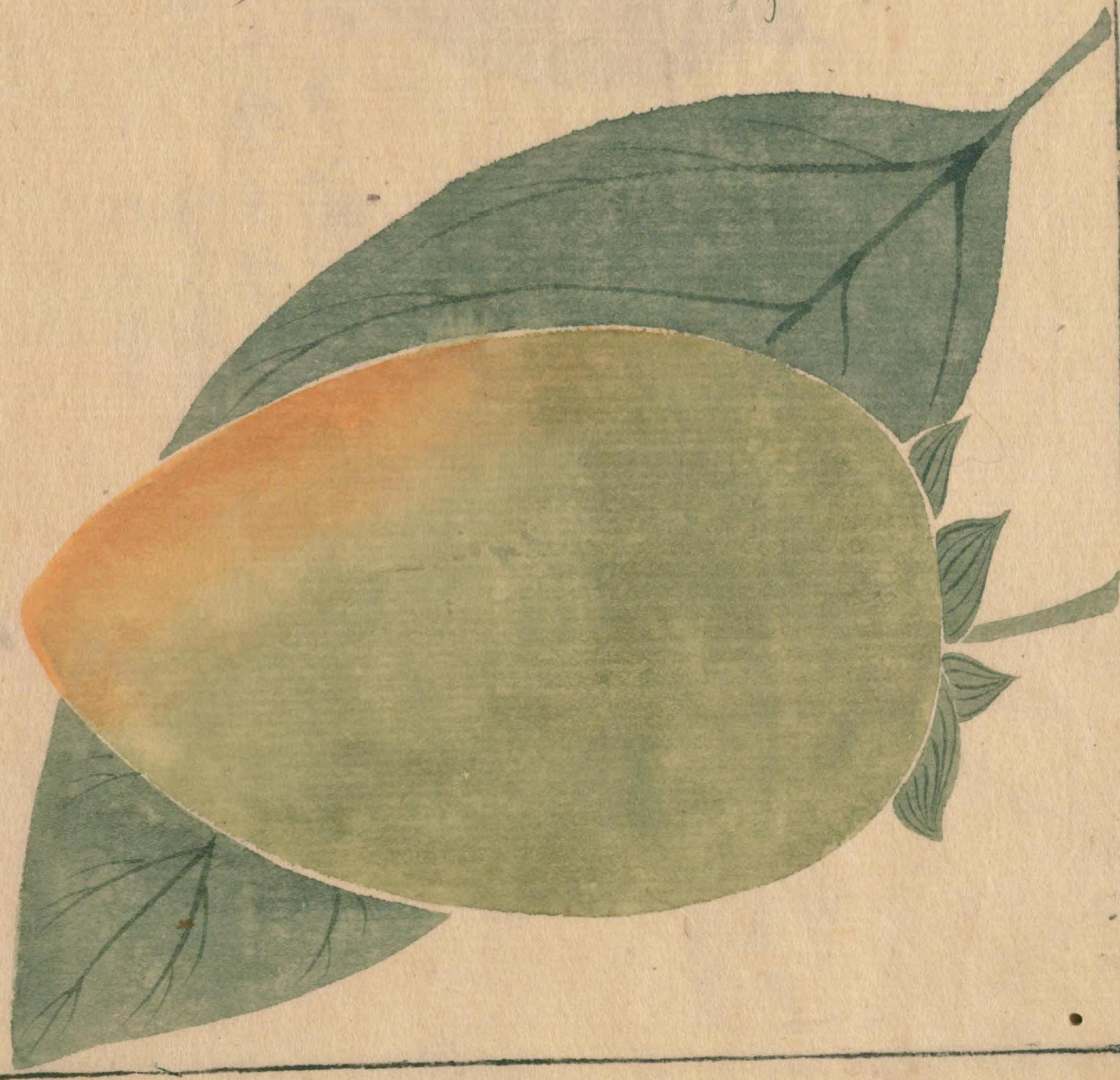
形状長くしてこのかきに似たり醂柹に作り又乾柹となる



ガラス使用

一種　ちちや

葉長尖実はまた大に形この柹に似て長さ三寸許り圓なるも三寸許これを皮を去乾かして粉を生せしめ白柹となしむ上品く又秋月半熟の物を採り器中に斂め一旬を過れハ自ら熟して柔らかく味ひ甘しこれを東土にてちちやといふ

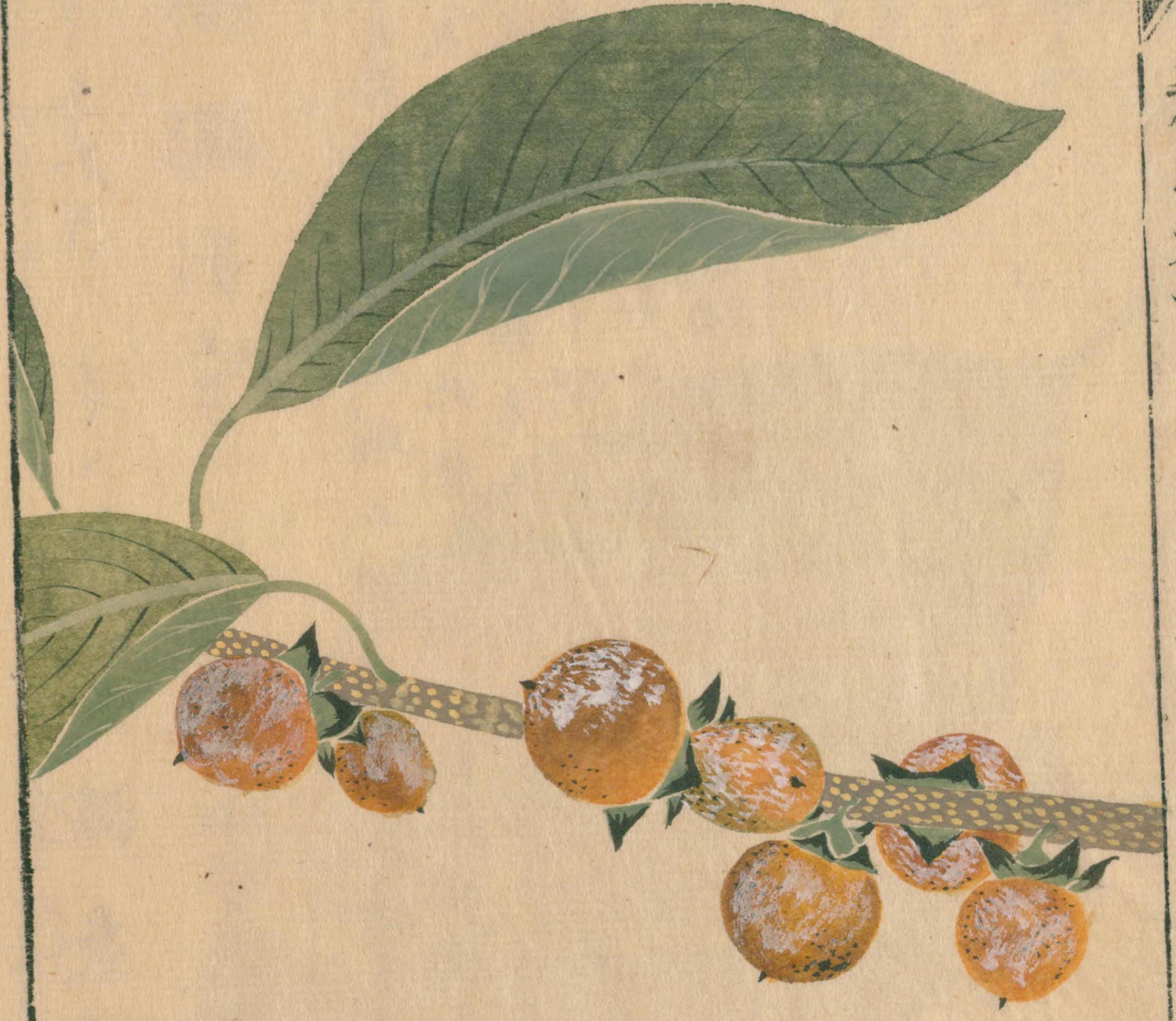


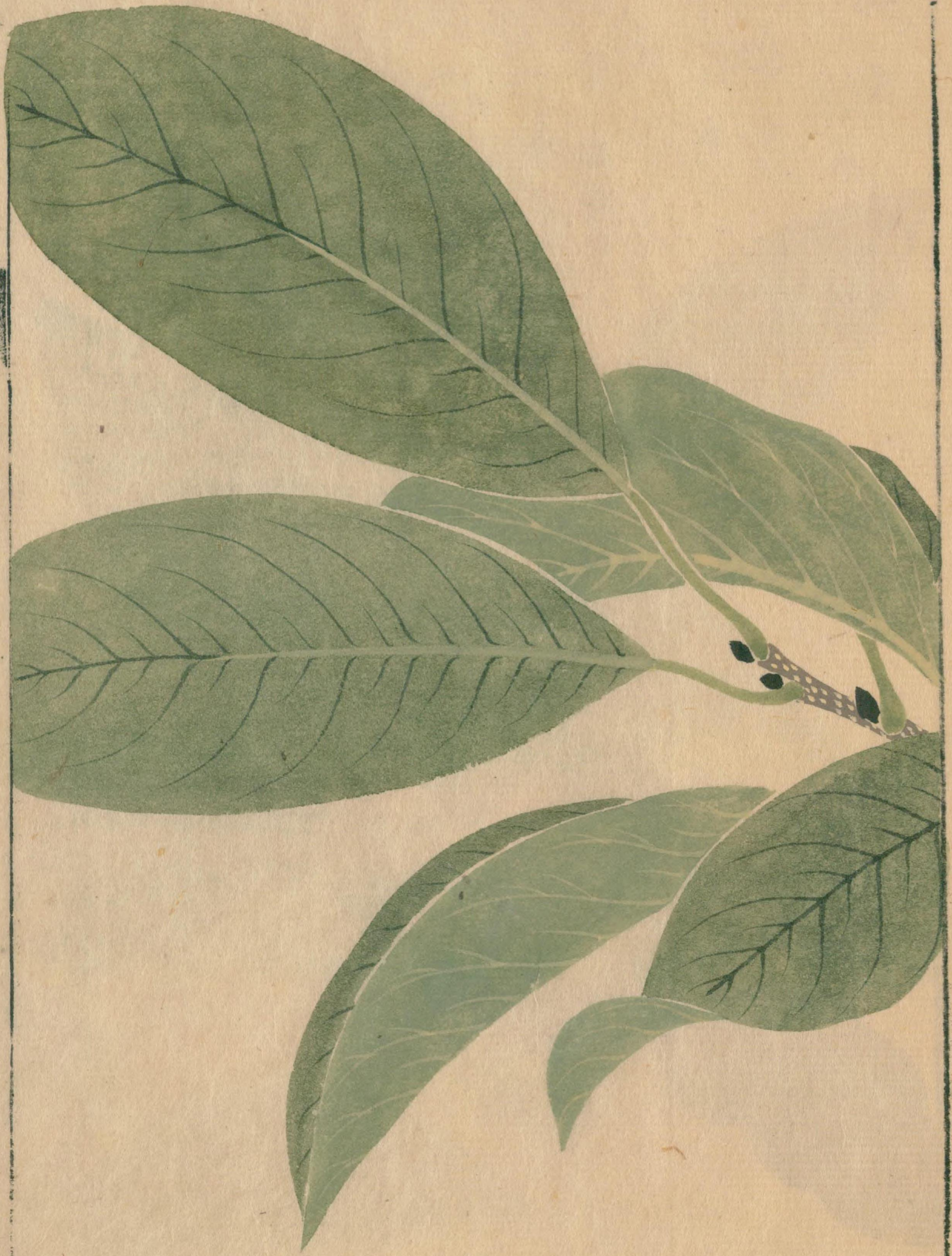
君遷子　さるがき　まめがき（大和本草）　檽棗（典籍便覧）

桾櫏子（正字通）　軟棗（救荒本草）

形状柹と同く実小にして指頭の如く圓にして長きあり梗また小なり大和本草に此柹丹波にあり味甘きを常の柹の如しと云り此物木にて熟したるをとり食ふ又青色なるをとりて水に浸し柹漆に作る一種ミすまがきと云物房州山中にあり葉まめがきに似て狭く長く実もまめがきに似て扁し

君(くん)遷(せん)子





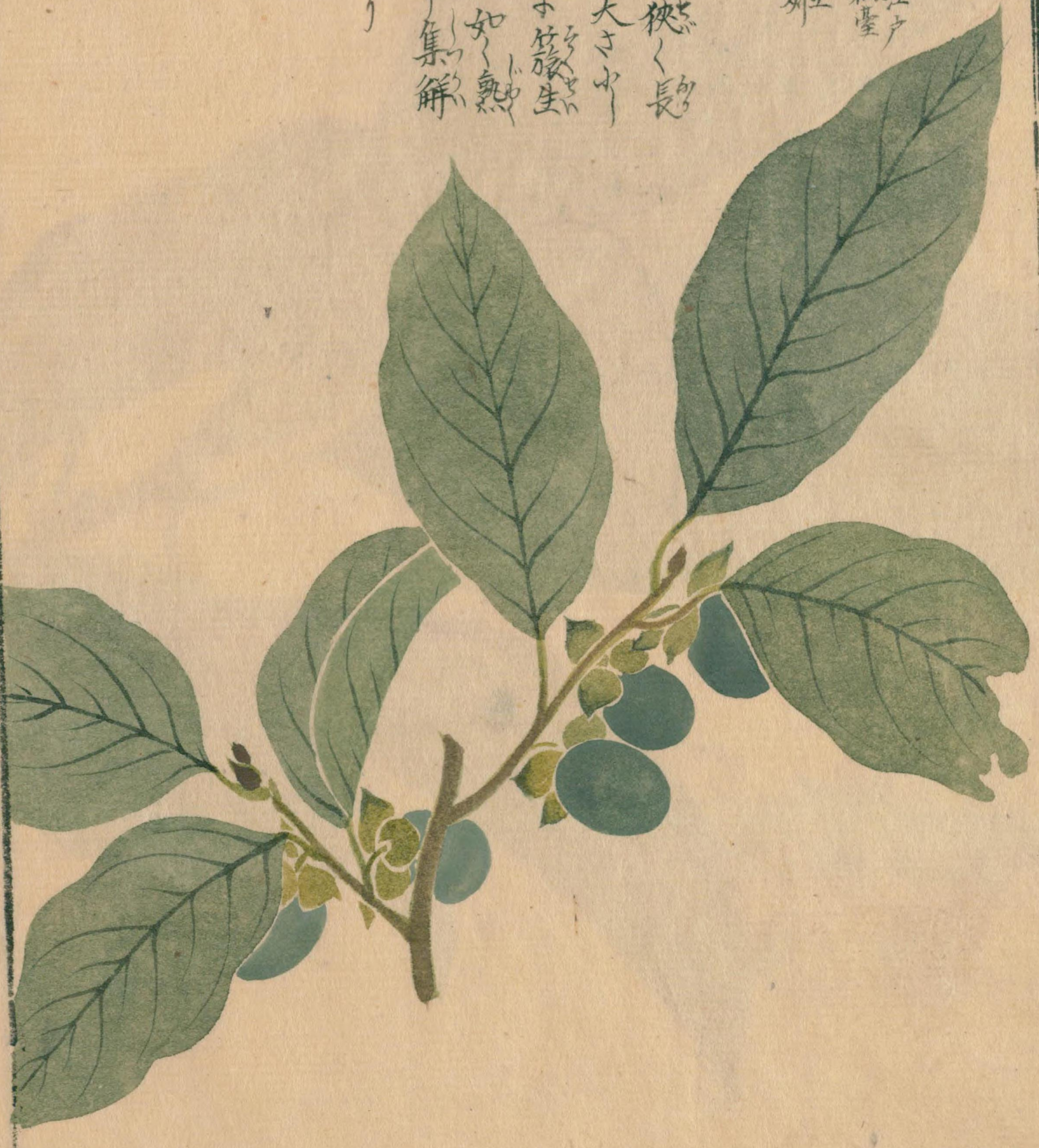
ガラス使用

一種

まめがき

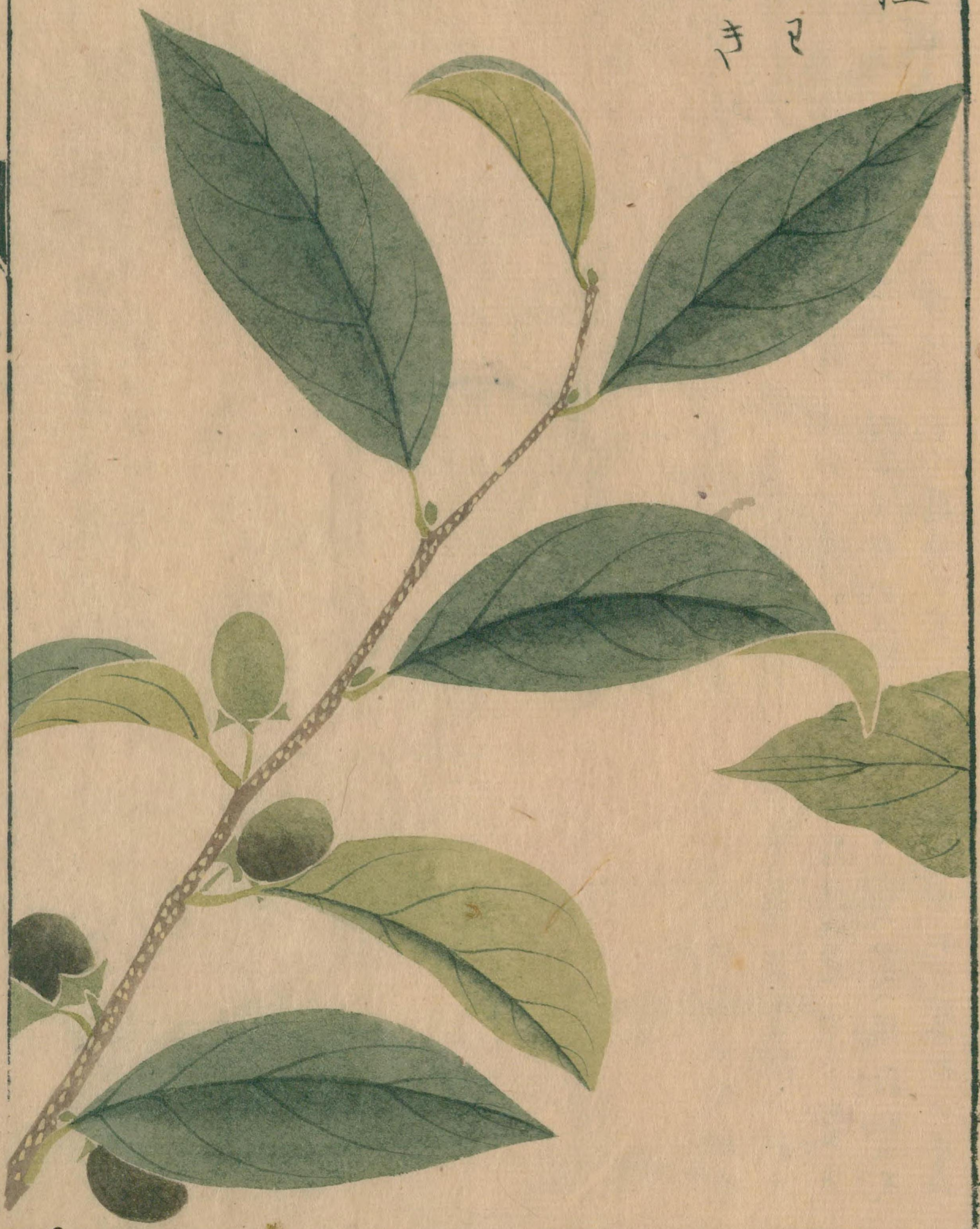
ころがき　（江戸 仙臺 刈土）

葉柿に似て狹く長く実指頭の大さにして正圓く後に簇生して葡萄の如く熟して黄色なり集解の丁香柿なり



一種

ときはがき



紀州深山に自生あり四時をりに葉あり葉の形まさきに似て稍小にして厚く二年を經といへども落ず葉の間小実を結ぶ形まさきに似て小く熟て黒色也

安石榴

ざくろ　しやくろ（石榴の轉語）　カラナートボーム（和蘭）

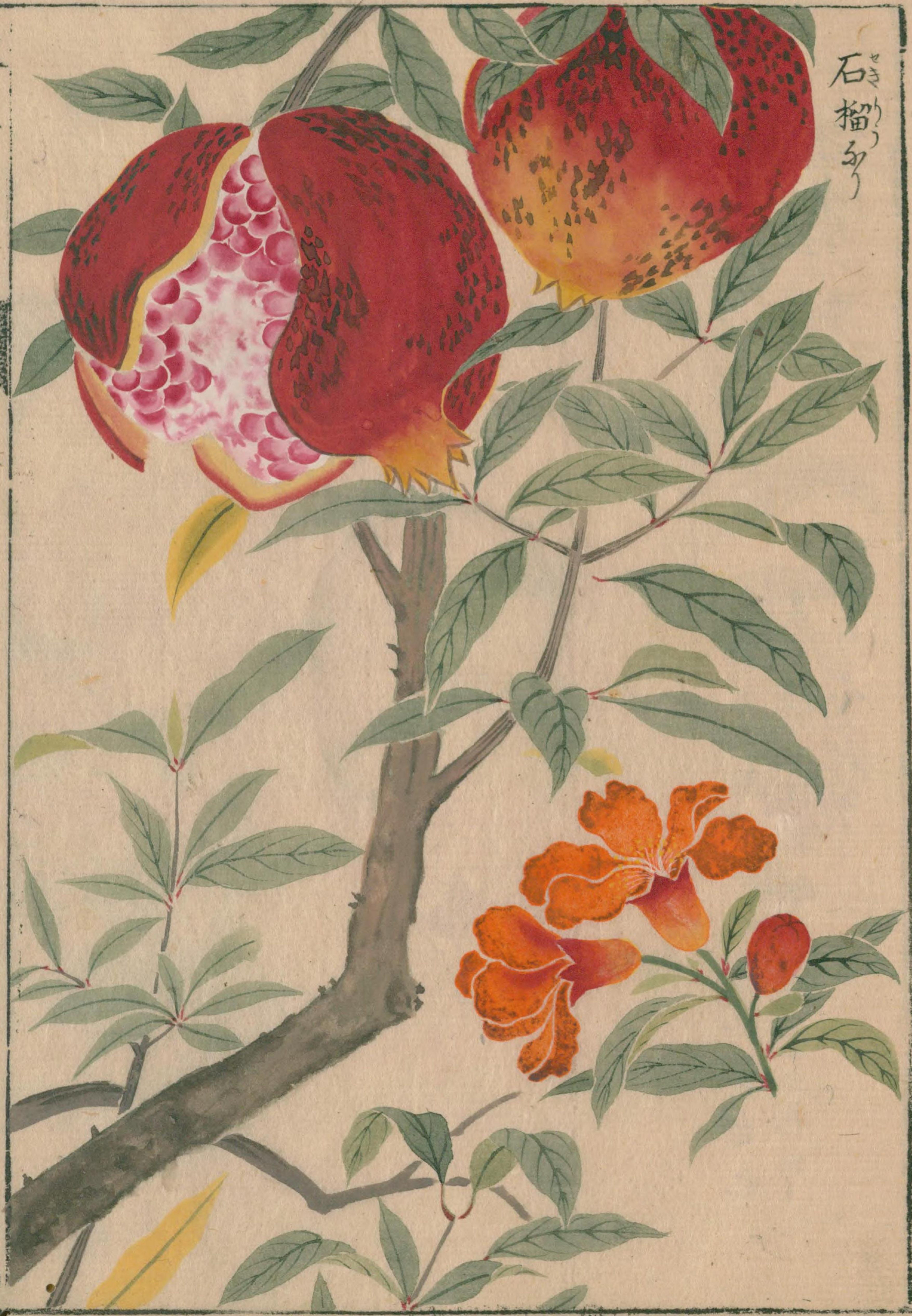
金罌（群芳譜）　紫房良研（名物方言）　石醋（花暦百詠）

剪紅絹（名物方言 花の名）　延年花（本草和名引崔禹錫食經花名）

娜捻摩（梵語）

人家多く栽ゆ樹高さ一丈餘葉ハ千屈菜に似て春の末枝の梢嫩葉の処に紅花を開く本に蒂あり紫薇に似たり後果を結ぶ秋に至りて熟れハ形罌粟殻に似て大く熟すれハ紅黄色自ら裂る中小数十子殻中に満つ味ひ甘酸の二種ありあまさくろハ酉陽雜俎の天漿と一種なりすさくろハ実の形同く顆中の実白きを水晶の如し集解の水晶

石榴



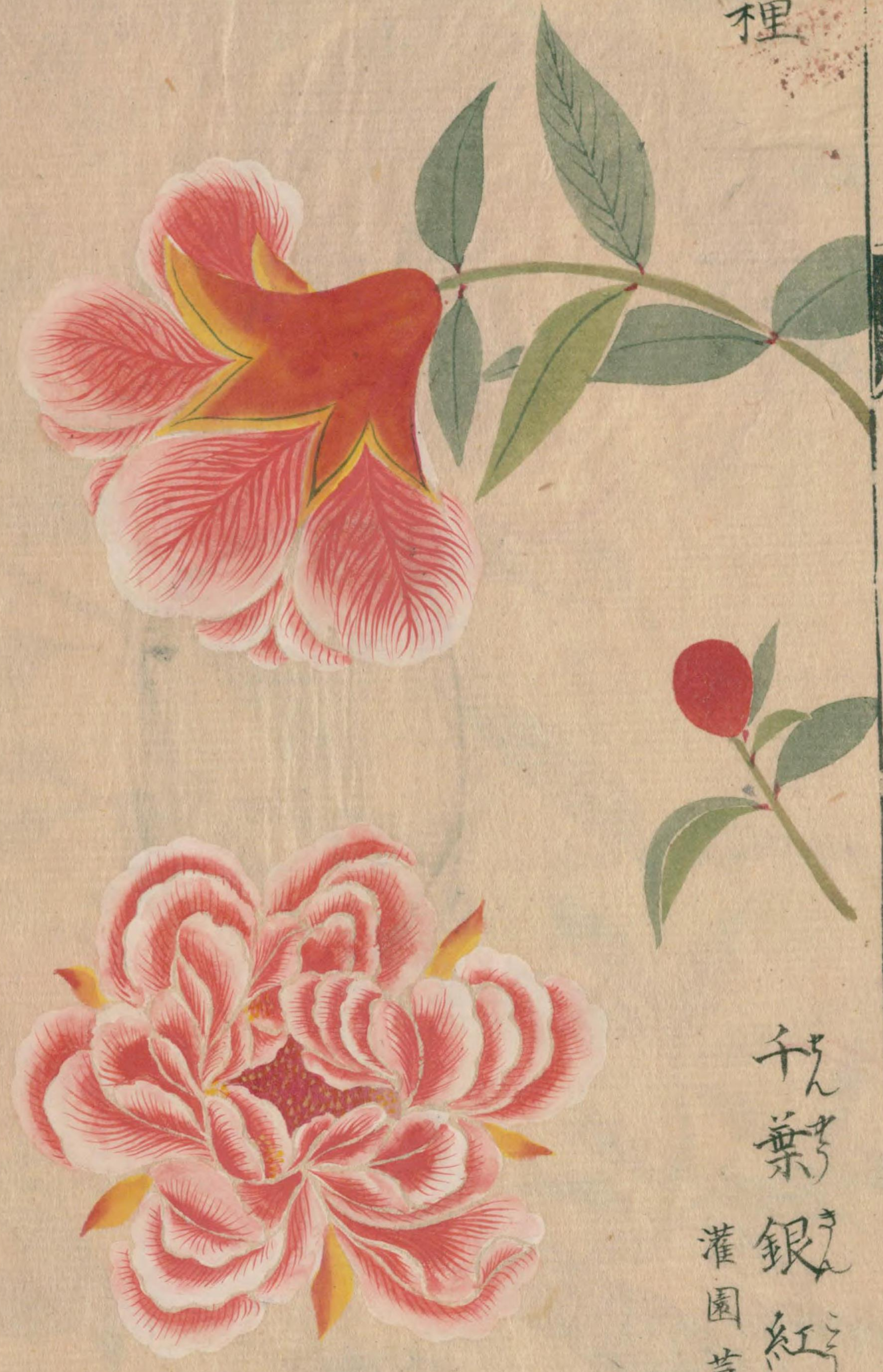
ガラス使用

一種

千葉銀紅石榴
（灌園草木識）

かきいろざくろ

瑪瑙榴（汝南圃史）



千葉にして瓣の本紅色末黄白色
実を結ぶ集解に黄赤二色あり
といふこれなり

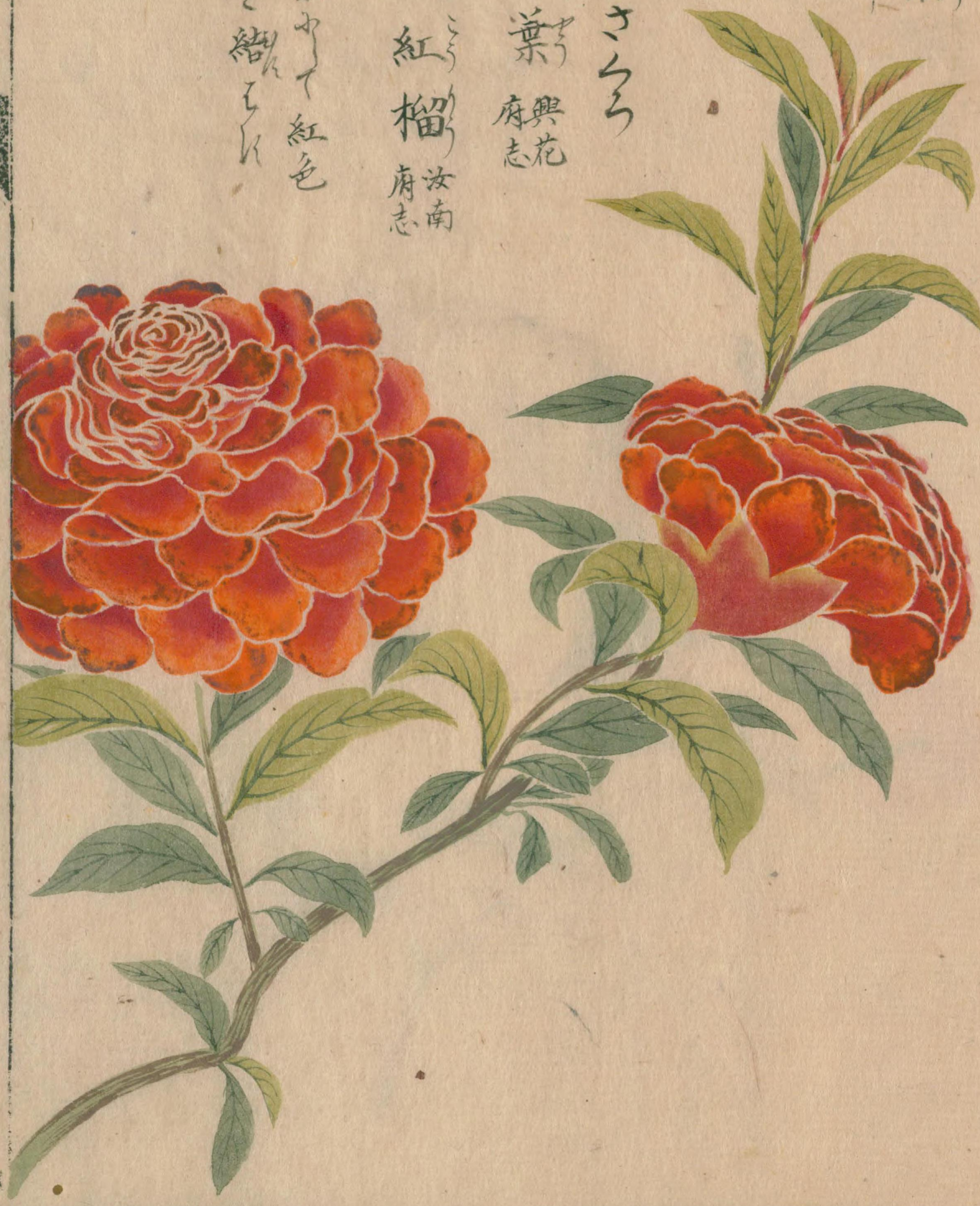
火石榴（集解）

もかさくろ

百葉（興化府志）

千葉紅榴（汝南府志）

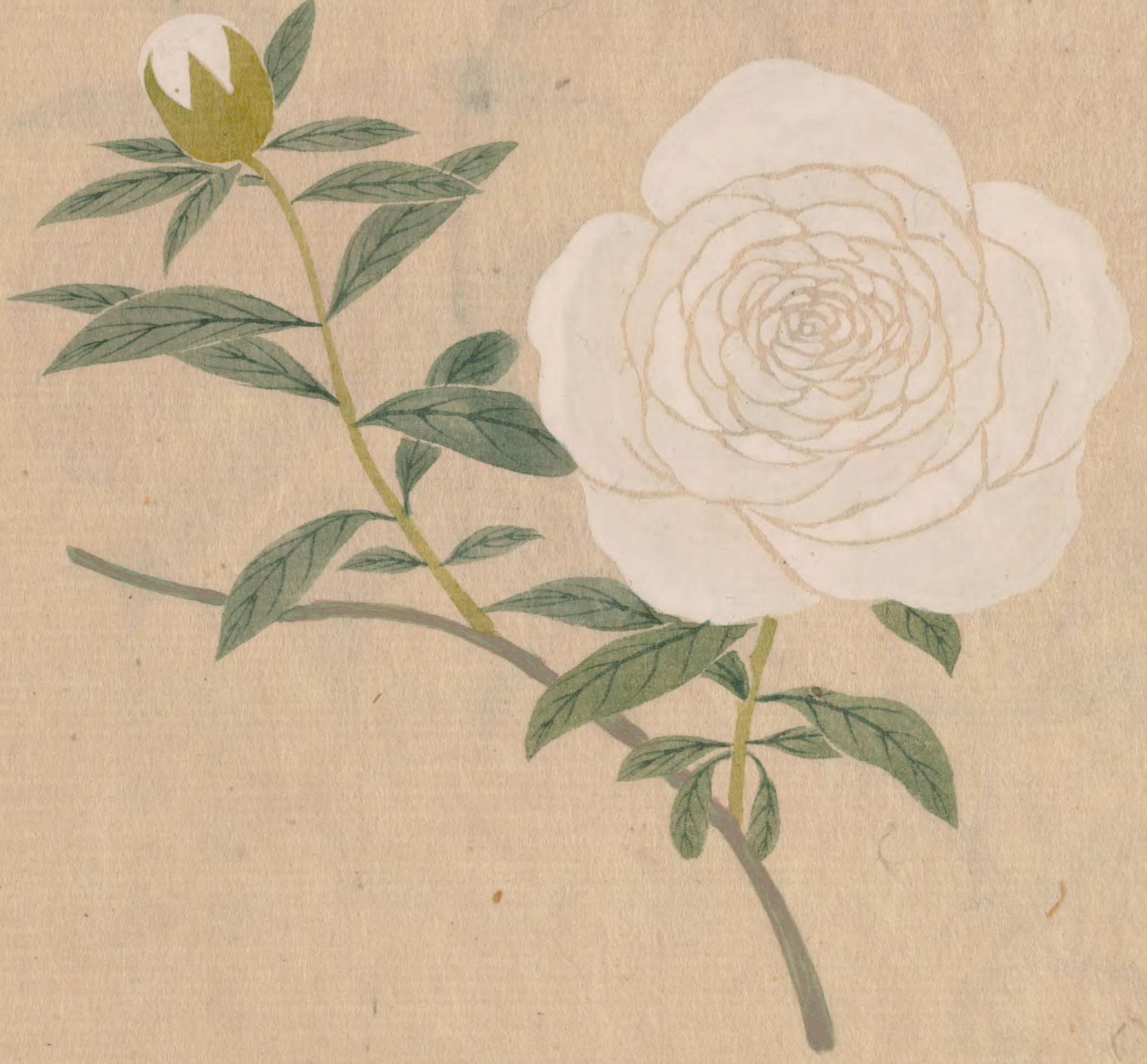
千葉にして紅色
実を結ばず



一種

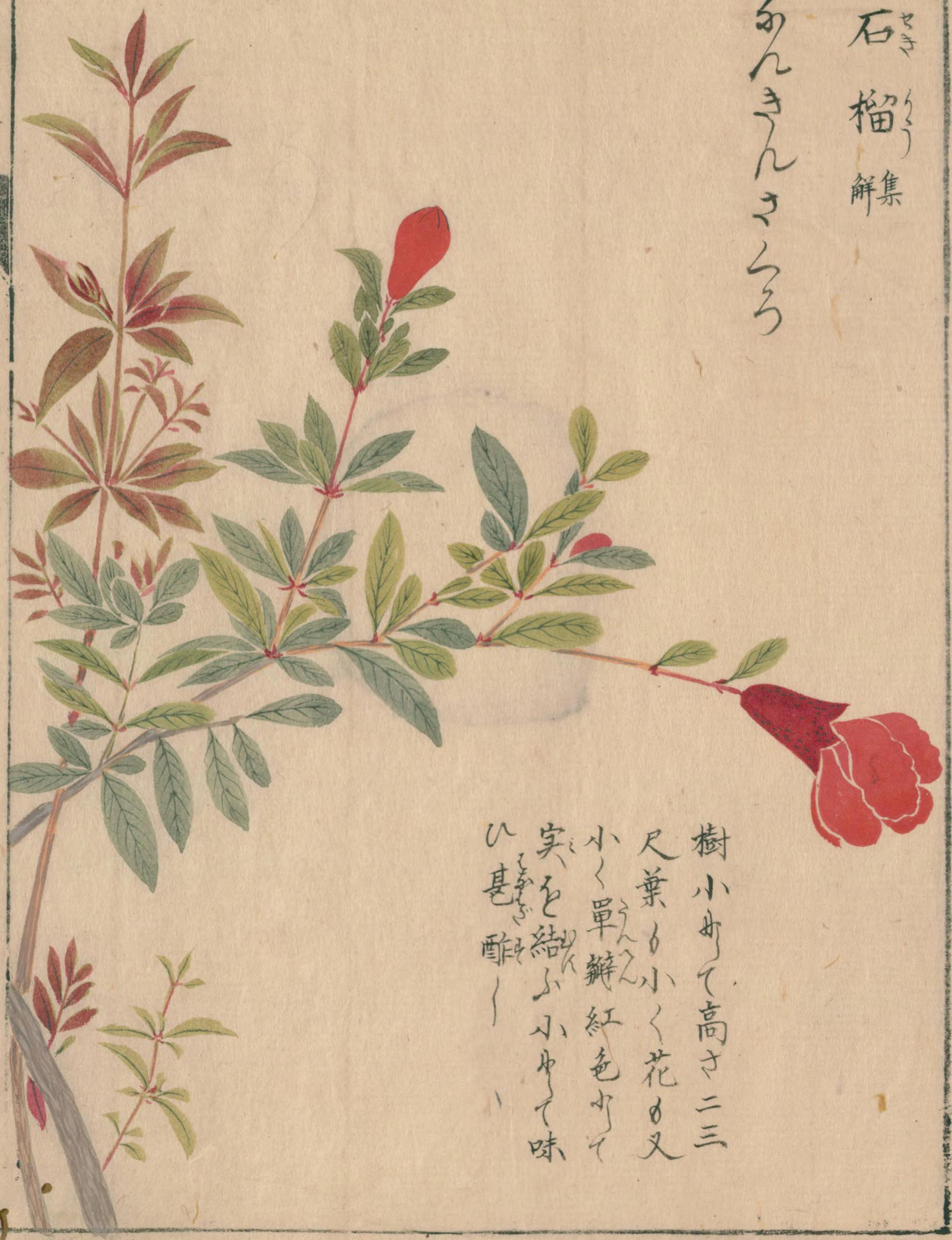
まいせうさくろ

花千瓣白色にして形（かたち）状花さくろの如（ごと）し実を結（むすば）まれ



海（くい）石（せき）榴（りう）（集解）

かんきんさくろ



樹小にして高さ二三尺葉も小く花も又小く單瓣紅色にして実を結ぶ小にして味ひ甚酸し

ガラス使用

特 7
19
230

ガラス使用